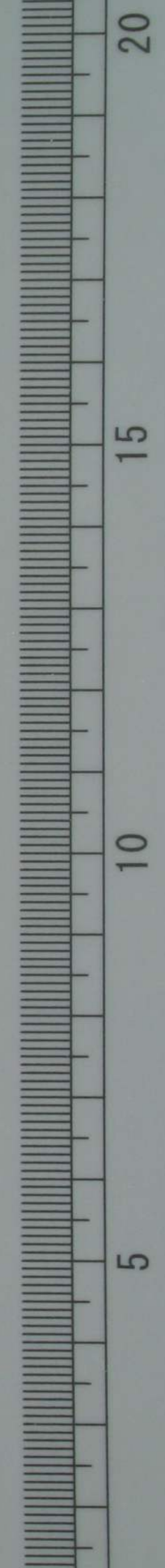


7・6
3456



門 36
號 3456
卷

高野山氏

半印持

早稲田大學
昭和27.3.5
藏書

諸國 幸申じ奉る序

此の探厄子の御國祇法師此跡を慕ひ
を傳を授ふ所 杖杖をり 八幡
内子墨井とをまをるも ころえありき書
集るる物あり 探子やもるる心こころ
ま 蛇の跡より天さるる跡此を
ま 蛇の跡より天さるる跡此を
佛國此法を我の申せしと年月より

ときを移らぬわがわがきびきりなり。いづれははるる公務を
 らぬゆへに管府の審よりなかり。東東あはれなる松柏の
 ④言はれ大隅れあ家層お切始なり。⑤東東言はるはる
 一と合ふは波はれあり。いさゝか子親信なるのこま
 れ一と申す堂あり。車ををれ松とつるお松あり。又
 堂中よりとるを敷あり。い日清あ坂の弦なり。
 いさふあつまり。ち敷とうち酒宴なり。いさゝか。
 後室のまのいさゝか。いれどぞくは。文物酒
 りのいさゝか。東角念母のりそち。⑥いさゝか。いさゝか。



く初摺とてけあて。さきひてちをたとたり
りせ給しよ。弘刀意渡のゆへにたもすらち
傍。ちをせとせめ亡しあふ。ま摺ひよはるを。折
ぬ玉造のさうのうへよ。曰天皇とて建たわの
て。件の像と安垂しあをのら推古天皇とて
年よ難波の意渡の東よりうへ。美濃と
号しあふ。又美濃とともいひ。又難波ととも
いり。その名井へ人皇九十一代依見院北は
号。永仁二年悪性といふ。沙門にこれとてある

名井の額へおせたる風の筆徳絶妙のもの
なり。額の文へ釈迦如来。持法佛。不空極樂
と東門中とあり。但し道風の悪性なりと
三百三十年沙。等の人をまじり名井に額なりと
ちるふ。後代にたらしうと知へ。ち子十六歳の
像と安垂せる。雲の中へよあり。曰十九歳は雲の
うへちるふ。あり。○沙門徳徳。徳山の出家法
人。心外おれとつとびるなり

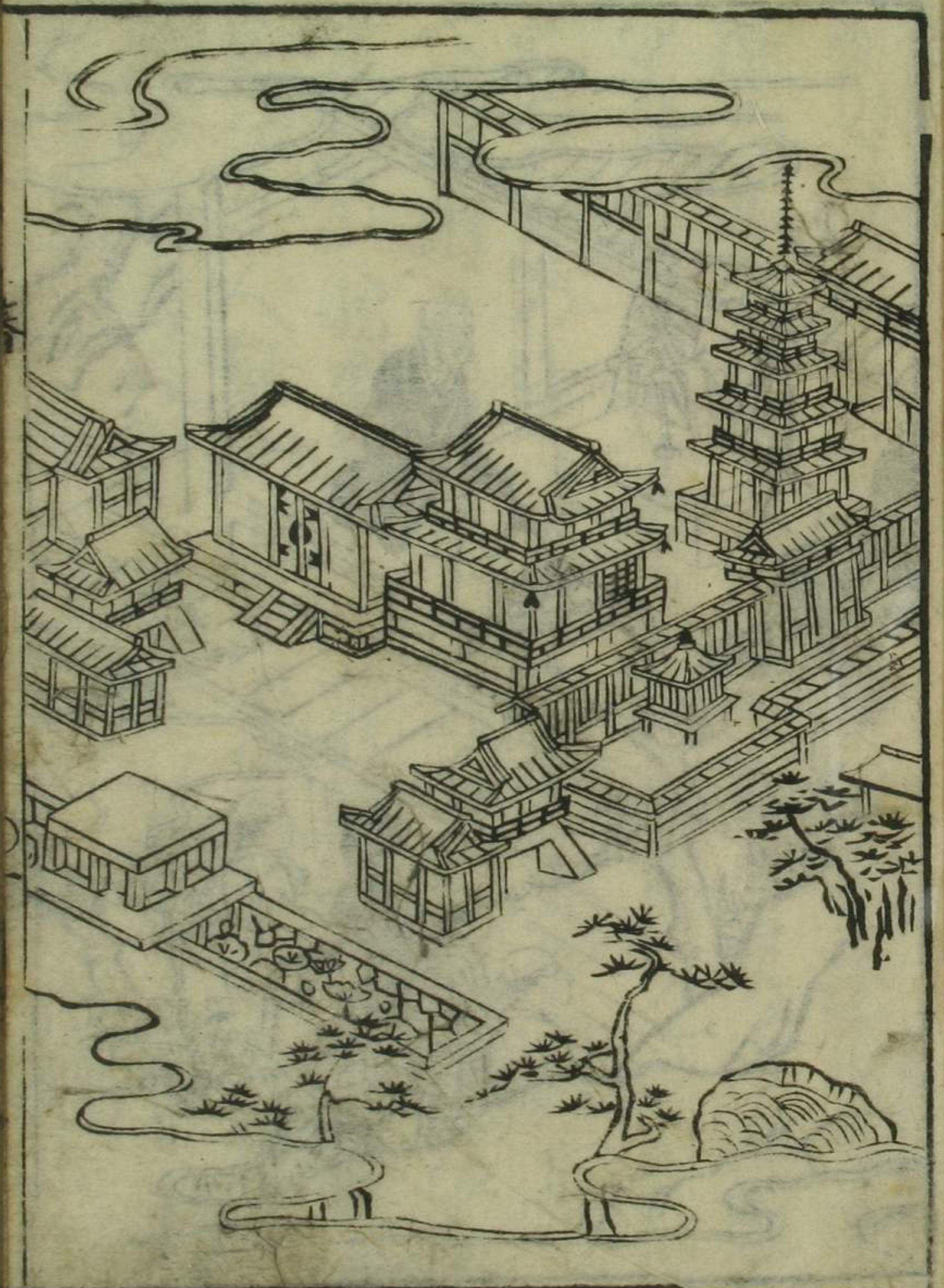
首の文沙門徳 持家沙門徳おれ 京 东山寺の基也

のちのちの律代りありあつて。彼母ふし来現く
あつてを。これ徳神記よみたり。彼母ふしは
齋の事なり。合習の統よは中地業師の事と
とり(後)天まもち子堂。隆正(後)のころ(四)志
の神心より年数なりとて。徳人稱念とこれ
と飯余神心ととり社外十又八人自六十六代一
条の院の由り寛弘年中よありて。此院宣
りてありていふよ。勅傳しきなり。

旨(四) 白るは善き。白るはと禁をいひあり。一

条此院の由り。此堂の園白るをいひたり。これ
つ(四)此ら此奏(四)此神法。禁裏の世寂後也
これとつとむ。比日より十日中そなり。東ち此
室(四)翻よりこれと執りて(四)笑言の神の朝
かり(四)東法ありあむ堂(四)牛主(四)加持(四)徳人稱念と
牛主とつとむ。此(四)強(四)穢(四)魔(四)堂(四)念(四)始(四)
比日より十日とて(後)天王寺白る(四)此(四)院(四)云(四)成(四)れ(四)
六時堂より(四)此(四)院(四)云(四)成(四)れ(四)大
徳寺(四)乃(四)富(四)揚(四)列(四)大(四)坂(四)西(四)部(四)教(四)一(四)所(四)り(四)挂(四)本(四)山

と号^し以^て暖^の天^の皇^のの^の此^の弘^の仁^の年^の申^の乃^の此
 勅^の示^の不^の高^の八^の教^の如^の素^の師^の子^の親^の者^のかり^の弘
 法^の大^の師^の冥^の昭^の法^の者^のと^のか^のめ^のひ^のみ^のう^のど^のじ^の此
 幸^の河^のり^のじ^の地^のかり^のそ^の後^のた^の大^の后^の源^のの^の融^の公
 乃^の志^の終^のよ^のり^のて^の七^の堂^のを^の建^の立^のを^のあ^のけ^のひ^のゆ^の
 よ^の融^のと^のち^の号^のう^のて^の大^の融^のと^の号^のせ^のり^の後
 よ^の後^のを^の眼^の洗^のと^のは^の孝^の河^のり^のじ^の其^の場^のかり^の終
 明^のあり^のひ^のよ^の年^のを^の天^のは^の二^の社^のハ^の南^のち^のり^の南^の二
 所^の余^のよ^の中^のし^のゆ^のひ^のかり^のは^の辺^のを^の康^のの^の尾^のと^のい





有りしあし原の長師と権宗宗時と違
 樽乃備とかせし時樽の本とよりより西
 かり 持列箕西乃糸也天中よりけ日糸也
 天乃室あゆて富つこととて徳人解集す
 八月の朔寅のころく西ハ持列老徳報かり
 箕西ハ徳安と号し。国基ハ役の優徳
 寒かり人會は十一代持統天皇は此字
 後の乃君大和玉尊御の上。於よ出生し
 あり三十余歳ありて家とてて原心よの

かり。葛城の志摩屋よこのり。昭元と持して
仙府よへ。忍林と馳て山谷とひらき。目平の
区とわすねくわたりあり。持列其西の跡
よついで。夏中よ新樹がうけよ。徳とさ
あそこのち。仙臺とて入。昔西と号し。新樹
の淨刹とて。かろひよ。其天と其地とを
吳孫とて。かろひよ。されば。徳人富とつて。天
後といのちよ。そを。徳ひよ。これとて。持列
持尾ぶの。徳実。これとて。かろひよ。く。徳徳よ

し。代田より。二里あり。七宮とて。古殿とて
南ちの。人白。四十九代。光仁。天白。其法。空。寶
龜八年。よ。建立。河り。因。基。ハ。完成。産。と
して。光仁。帝。の。内。子。かり。し。く。い。と。け。る。と。り
ふ。く。弘。葉。よ。ん。と。し。天。平。神。後。元。年。正。月
一日。ひ。そ。く。ふ。美。中。と。出。持。尾。山。よ。入。て。る。と。こ
た。と。て。塔。と。し。そ。う。こ。つ。に。徳。實。一。の。二
多。ひ。じ。ふ。物。と。う。く。と。事。り。これ。と。わ。て。ふ。ち
よ。と。味。ひ。美。く。く。て。軍。余。と。い。ふ。と。い。ふ。と。い

十日（春）今更まのり栲引安倍社の少よりあり。祭
 神三所。蛭見。天照大神。素盞尊（右）なり。日
 後。祭事と。俗より十日ありといふ。又いつれは
 日と恒例とありたり。六月。信陽の祇
 會より。比西の里人神樂と。振役よりあり。祭
 事あり。事なり。④。おのより。系に。西
 支町のぬよりあり。祭神一所。蛭見。おる。祭二
 所。八十神。右。大巴貴命。左。おる。二所の祝へ。ト
 社の。道。恩。二十。二社の。後の。祝。これ。なり。栲引社の

名次社。蛭見社。天田社。須川社。仲夷社。
 の田の。け。社。の。と。歳。より。あり。あ。よ。と。わ。く。と。は。さ。る。よ。
 よ。り。て。は。父。母。社。天。の。懸。櫓。棒。亦。よ。の。せ。風。の
 中。あ。く。と。ち。ち。ら。た。あ。よ。と。物。と。ら。夷。ひ。ら。ひ。と。り。や
 し。あ。い。な。り。て。後。け。西。の。よ。り。と。れ。あ。あ。り
 ④。常。陸。常。の。社。多。常。陸。常。大。の。社。の。社。多。
 社。の。二。子。不。二。の。社。多。東。長。門。守。二。百。と。と。り。
 熱。大。の。り。多。常。陸。常。出。羽。の。二。百。と。と。り。常。陸。常。
 の。列。南。の。社。多。と。り。百。成。六。と。と。り。比。西。の。社。多。

事あり。又左遷の由とては、西より前途
ましく、桂川の舟よりつらせありたりとて、
菅原公現のち社とて、これと傳ふ
は、卷西とて、これに傳せあり、此は、右様女
と号し、(口)芝の社ゆかり、年越ゆかりと
て、信人頼義の、(口)伴坊山田獅子路の社ゆ
外、又、むらりあり、(口)日、むらり十七日、まてなり
十五(口)粥の本粥、杖、沖、西、く、こ、よ、ら、い、ら、い、を
と、て、女、の、擲、と、う、ら、た、り、あ、る、こ、と、れ、を、う

た、ま、り、た、り、抱、へ、男、子、と、う、む、と、り、信、少、能、云
う、抱、双、紙、あ、と、み、く、り、(口)粥、と、熟、と、(口)東
永、親、堂、中、号、田、住、文、氏、天、皇、由、宇、每、衛
年、中、此、弟、針、田、基、八、秋、志、瀬、と、て、弘、法、大
師、の、才、子、か、り、中、興、田、基、永、親、律師、本
号、(口)西、の、由、お、好、か、り、(口)賀、茂、左、美、虫、并、律、多
爆竹、有、(口)強、織、法、淳、志、秋、也、等、名、田、住、又、月
九、月、同、号、住、古、乃、栖、屋、敏、か、り、と、ら、て、昔
の、栖、屋、と、号、し、古、久、九、十、七、名、信、織、天、皇

の北野を海に引く。恒寂と圓徳と。天白皇の御子
三年。東大寺の奮徳法師。入角として。今此
如のその像。十大弟子の像と持あてて。比
寺よあま。清浄寺とわく。さうさ
恒寂法師の塔。南寺よあり。奮徳乃塔
南寺竹林中よあり。東の山系。楢
為の山上よあり。三峯とてお連れり。これい

かり大町林を。てて。徳神の石あり。氏人
これと。西壇と。ふ。新向の杖と。比。南。あり。今
月社。東。の。く。い。南。ま。の。山。依。ん。中。書。徳
の。身。才。天。の。富。山。八。横。系。比。目。今。十九。目。比。了。
川。て。徳。人。報。系。と。これ。と。厄。神。ま。の。り。と。い。ふ。山。城
の。墨。久。世。那。男。山。よ。た。る。色。り。ふ。石。法。多。八。山。城。系。版
よ。あり。社。然。七。子。思。信。石。余。系。神。三。神。中。殿。を
意。神。天。白。皇。東。殿。八。玉。像。惟。西。殿。八。神。功。白。皇。后
かり。法。和。天。白。皇。此。山。宇。貞。観。元。年。八。月。大。和。大

安志の傍行教をあのまう佐のまよこ
のり西尔現とらう御り養安ととけて居
山鳩のまよと御徳と。乃安へ天白此切に
氏内宿孫の後胤へは天白と八様と号
らる事赤白此傍の由來をい世人のい
らるるといふとを左よのあうは天白此
河内乃参田一河内。宇佐と御徳の
後和氣の清鷹と徳して我こそ参田の
八様と。此名のりはまをい此よてなり。是

ト初の兼那佐あり。厄神の社へ下流と号
は。延喜式よのふ所の山城と攝津との場よ。由
つる所の役神といふ是之貞観二年よ乃安
法師神友とつる。香師者大内神樂の由佐に
桓御の由佐礼和具後とん徳と云ふ大門乃
あまてこれと執りて。南於七太寺のまつ
あてち銀二万五千十九と云ふ事余とらうあは山階
と号は。大織冠總足山城のまう佐乃初
小虎のま山階の陶尔の家よ佐あひいと

之造立ありしより山階ありしより天竺
天白と白鳳元より大和のまゝ市朝殿坂より
うつしつて麻坂と号せしるを造りし元昭天
皇和珣三年南都去其地よりうつしつて淡海
造営しあり奥後とありたありを仏法
畷の地より南より南大門より二五其像とありし
に朝の徳とけしむて枕のまゝ河内其聖
の御粥○菟あのをふ情多の松離子

十六回 瑞雲山 本山永親堂大般若經持續

東百方遊会珠と出ると南寺へ神系忌吉田山
のふよりありち飲二十る衣徳山智恵と号
は淨土宗に於て一むち田山内光東漸大師の
才子務親房源智上人ありこれふ松の内大
匠平井重造との孫として徳中寺師豊は子
中興開基へ淨忠上人あり○又其の孫の
歩射あり○素子平福慶堂あり○らんまの
男女棟舎とすつて○小山石不純あり○
小山金園あり○麻苑と号しち飲二百る余

後小松院應永四年。足利家三代女の武昭源
の養後公に建意せり。法名と麻苑院。道
長大居士と号し。比西国岳の地なり。山亭と
云ふ其養園あり。身一と法名院と号し。中
弓教也。太よ。親善勢とあまると。西に燈
よ。養意玉師の像あり。いよ道長の像あ
り。第二の園と湖音洞と号し。自然木の
親善并に天王の像あり。第三の園と寛
亮頂と号し。額へ後小松院の西震院と

比後の麻三弓に西。床板一枚とありて。園
の内外に金物とあり。一柱あり。比ゆへ。金櫛
とあり。毎よ假山。比あわめて九川八海と和
尚石。赤松石。おの各あり。赤松石。赤松家よ
りともあり。後小松院新章中し。く。三日水
浄。及びあり。和音の池とあり。比西なり。比日
へ湖音洞とあり。徳人とのせとあり。を年々
の事あり。といふ。男女群集と七月十
六日。同日より。東山報欄とあり。洛東浄を

⑫ 齋魔まのり ⑬ 多賀大明神の祓り施。江列
た上船たかまたくせりふ。社領三百六十石。祭神一神
伊弉諾いざなもなり。けき切きりきそよのり。社又大
かり。ここれあて天よのかり。社令しやうふりて
日のあまよそゆりあふと。これ多賀大明神
へ。接社せつしやの内うちのまへま里まりりひつ押おせしよ
る。まこれと奥おくの山やまあふり。○丹後九世くさの
の社しや行ゆ南みなみの文ふみ殊ことやうり。祭まつりあり。現ま
し。う。岡おか浮う壇だん令しやうの像しやうかり。堂だうへ。東あづま向むかひ。毎月

十六日のよ。秋まより焼めさくららそそ。秋
半さるは。七箇の方。神より。雲水の法ま
て。うらひある。正又九月十六日の夜よ。天龍
とく。元より。一龍より。又修験の山龍とく。一龍
あう。つら。法雲のあよ。山龍の松とて。あや
○修験の山道。接より。志のり。心懸村よ。は日毎年。
さきみ。さる。橋わり。世傳よ。正月十六日。さる。さる。
十七日。天ま。東照。又法系。知れ。毎月。同。日。同。
西今。雲。本。寺。の。秘。法。年。た。く。こ。こ。の。山。龍。又。文。の。山。龍。大。坂。の。

津村平野町より。俗説よ。徳念。修め。る。系。ぬ。り。又。り
この。山。龍。の。上。山。系。法。徳。大。名。の。秘。法。ま。よ。り。系。ぬ。り。の。之
十八日。賭。弓。又。子。り。湯。及。ゆ。て。り。と。山。龍。さ。る。さ。る。
十九日。山。龍。の。舞。ま。へ。十七日。小。河。り。修。験。の。山。龍。乃
包。丁。の。り。さ。る。橋。と。大。淵。と。湯。年。よ。つ。と。む。山。龍。王。
生。ち。六。社。大。の。神。の。系。早。の。り。流。流。さ。る。り。
る。八。の。り。東。と。山。龍。又。龍。若。修。験。の。山。龍。系。
橋。の。お。よ。た。く。せ。あ。り。社。の。九。十。八。極。氏。天。白。の
山。龍。早。の。の。さ。る。子。修。験。の。内。親。ま。り。山。龍。の。あり

とりあひ。人民大よわらふ。徳教之即奉
 定ととげ。八所の所長と徳教しあふ。所謂一
 有徳云二業道天白皇孝仁帝三伊豫内親王早良
の四有原大夫人伊豫親王五橘大史遠路六
伊豆七文太史文太の長田丸と号し逸路八穴雷伊豆
 右八所なり。中御長を伊豫所とせんべ
 けへち八所よはしゆせしう。かえ河川の
 徳水徳水よ社かぐも西乃器本津進徳水よなか也

のり終ひ。南時を而しにさう進こつ場あ
 づ。早良王を依云二能へ。上河原よりまき
 まいなり。東山東山高松大殺高松徳徳山
 山崎寶寺乃鬼補徳山宝徳山宝徳山宝徳山
 号しちれ六十名。曾氏天白皇と称毎口年執
 事し建立。用山用山の基がらう。本号本号ふつ徳山
 門天あり。徳教のち安河孫二徳とわらふ。あ
 つらう。天玉ちち子雲踏踏方のさひと。徳山
 徳系わり。新徳新徳あり。徳教の徳と。徳山

け安井れおかり。山号を栢川山といふ。河内
近海の建立本号の字を親善の沖作はの沖作は
浪東流あるの所流よかり。まきとげまよ安
をせるかり。地秀思沙門の堂。たおよあひ
し。いれと浪の流あるれ振さるる。南
ちとと。新流ありと号せり。江流系親善ま
り。凡そ。氏列を流親流まよかり。ち親善
る坊舎は十一ヶ所。推を天白れ油宇。南あひ
つと。中興系権院。中宇天。まよ入年。安唐

司年のお雅といふ人。氏親のおちとかりて
南ちと建立。田園と号す。本号の心親善
本親善の头像あり。傍尾の富栢川
かり。編記たよつる

十九内た義忠。禁座。唱門師。お鬼飛の
あて。是とつと。おをれ流の肉よ。お人余の
人あり。山標と号し。人れとかり。お熱乃
病とつる。山標へ竹と焼とととて。おど
り。おとつと。おか。おの。お

毎月同申く

〔三〕東山寺音書秋也松岡林正九月同申く音書
の音にあり。ゆゑ心と号し関白秀次公の書生を
日蓮宗家く

〔四〕西山鴨宗寺 天正寺を徳院殿の山法系の中
月同申く 〔五〕増上寺へ法大名山系法徳院殿あり 〔六〕
也宗寺あり 月吹

〔五〕東山寺大師此系の法系 〔六〕東山寺天徳寺とあり 〔七〕
東山法系のこと宗書ありこれとつと心毎月く 〔八〕

天徳の天祥寺あり。難波津の天徳寺あり。東
祥一社。東山寺天徳寺よおか村上天白寺の天暦
年中勅定ふりて勅徳と 〔九〕安井天祥の連
寺毎月同申く天正寺の西門とてお坂の法系の上よ
あり。系祥一社法祥あり 〔十〕天祥寺あり月吹とこ
〔十一〕西山寺下津林祥寺法徳院 〔十二〕徳徳寺あり徳徳
徳人男女系集し七月と祥徳七月と同申く

〔十三〕東山泉涌寺の金利会 一月同申 毎月同申く大徳の東
菊寺の音八十一石 噴徳院の内寺、建保六年大和

中京に松房正法寺の像仍と遷して用基を以
て下め松柱と号し、この寺は徳源涌出せしが
以て泉涌寺とわらばじ、徳源涌出せしが
泉涌せり、と下めして泉院とひきよみ、葬りたり
を松坂寺と號し、と葬りたり。東山院あり、
ちまて、代々の陵、高きあり。南と北、等二世徳海宗
より、より釈尊肉付の牙舍利と名づけて、南と
北に納む。高き尾流、此寺、真より、引て舍利堂、金
玉とりり、あり。東山寺、大日堂、牛王加持、徳人

へ出さる。④天儀のる不勅まり。⑤目黒の不勅
まり。⑥南と北、不勅の王い、あり。慈光大師。比叡
山大師の、愛中、のつけに、より。叡山、よ、お色、ひ、と、
ふとて、目黒村、よ、一宿、あり。い、い、ま、ま、こ、不、思、
の、美、愛、ふ、う、つ、て、ふ、勅、の、王、の、言、像、と、彫、ま、
ま、ま、あり。○下、徳、寺、依、念、田、村、の、不、勅、の、王、
苑、は、日、を、玉、れ、を、納、男、女、類、集、して、奉、養、と、
美、
院、世、よ、わ、り、あり

晦日、系、法、あ、な、武、の、連、方、○律、家、布、薩、戒、の、乃、法

清あちのふりといわりの。補陀庵の古波神宮と
号しちれ七十八村上天皇の御宇天曆八年に御世
上人達よりあつた十一面観音堂也。清
の像あり。御宇年村系傳説大社文以下三千石
一社の社と棟裏あてまう。せあひ。堂の年といの
せのふ。天王寺井田坊の法事。末のこ。

晋の東福も大嘗方け子のれといふ。門の家
家の門たよとい。疫病とのち。そを授けり。よ
方へ二字と合せる。地なり。土ノかといふ。なり。む

はも。社に氏子のけり。おの古地なり。産むら
あるべし。神社にまといふ。又げん。なり。牛馬の
わら。一字と二字ふ。けたり。生土なり。生
下の二字と古の字。けし。つけて。まといふ。字は
し。る。なり。う。か。た。に。産。む。の。ん。なり

首。天王も。太子堂。二會。百ノ。て。数。あり。

七日。和。勤。の。徳。具。後。ち。の。も。大。門。也。今。日。年。係
生。令。別。今。表。三。所。の。括。系。臨。自。よ。二。所。つ。に
て。つ。と。む

八日 宗祇軍山八講 推古燈二會 酒の如く
たすめは仲秋とつらかり 嘉二月堂あり 弘治
百五 宗子大徳寺のまゝ 終焉 十六日
瑞應山と号し 信ふふに 秋か堂と云ふ ちり
百五 余用天自 徳系 劍指 中納言 光隆 心の
回徳あり 今の中堂 奥列の 考 衛 建 立 して
如珠上人と法と 赤樹上洛の 時 車 輪 輪
て 南 寺 あり まゝ 表 燈 会 へ 東 山 智 換 院 の 所 徳
これとつと 中 祇 集 と 祇 集 の 法 の 宗 泉 涌 ち

の今利用 牝 淫 繁 像 々 々 山 禱 子 山 寺 松 の
又 穀 多 社 氏 十 一 八 年 余 宗 祇 二 年 宗 禱 眞
御 前 の 神 禱 け 由 祇 へ 伴 禁 海 号 火 の 祇 々 つ ち 切
て 三 辰 と 考 あり 一 辰 高 禱 あり 別 是 考
船 の 由 祇 々 禱 禱 と 禱 禱 と 禱 禱 の 禱 々
して ぬ と の り ぬ と や じ り ぬ け 祇 々 考 あり 考 あり
其 禱 あり 考 あり 人 會 百 六 代 後 宗 禱 院 の 由 禱
京 中 禱 禱 禱 して 考 あり 考 あり 考 あり 考 あり
の 禱 々 考 あり 考 あり 考 あり 考 あり 考 あり

新吾光孝と号し(京)中儀と目蓋上人像定帳
 京極通今出川上二町目小あり。廣布山と号し
 後醍醐天皇の御宇小建立。用山日秀上人通高
 日蓮の像。頭強世とあり。京極坊の石塔
 あり。光孝天皇御宇。御子の御妻の親王は。吊に色
 ろく。此座。河原小出と云ふ。つとあり。今
 京極小とあり。御子の御妻の親王は。吊に色
 ては。中を。あり

十八(山) 峯定吉の親善と云。熟るの奥とあり

十九(○) 芳宗と云。定衛と云。廿三日。申。申。ケ。日。之

二十(○) 渡月祭。駿河富士朝とあり。大山祇の女本
 也。喉耶。命。なり。延喜年中。又。執。法。なり
 新美。熱。社。伝。子。三百二十。本。又。八。百。六。拾。七。本
 熱。社。あり。申。あり

廿一(○) 下谷。搦。筋。祭。但。子。寅。辰。午。申。戌。の。年

廿二(山) 太秦。狭。路。祭。の。子。子。云。山。加。賀。後。松。林。下。祭
 好。鳥。羽。渡。水。忌。日。震。新。并。水。震。新。と。あり。天
 王。の。祭。と。あり。石。の。祭。と。あり。終。人。の。祭。と。あり

酒のこくち子堂にて法事奉ふ所あり。法事の
次第。出仕の役人。職掌の行列。涅槃を誦し
し。終日此人の舞あり。また或者まじりて
法言。廿一日より廿三日まで。枕形道。百廿五
日。糸しりく。終嘗あり。南討。一日の法言あり
ゆへ。舞系。毎月。終り。途中に終り。終嘗せ
らるるあり

廿四 ○江列法行八種

廿五 京 小社天神池 志（入て西の京） 京 吉行院 志

八種執りあり。○花町天神系。び日。自
像とあり。○山王大夏社。舞あり。山門より
終り。○三月の事あり。○河内。乃。乃
天儀。天神。池。自。池。の。像。冥。帳。百。七。十。八。南。討
ハ。海。家。の。比。丘。危。寺。あり。な。す。十。一。面。親。言。池。長
三。天。天。神。池。池。之。推。古。天。皇。の。勅。形。中。所。池。長
子の。用。基。あり。○池。の。連。八。種。あり。て。終。言。と。終
造。と。び。西。八。利。古。師。置。あり。又。ア。の。文。系。終。と。う
づ。め。あ。い。う。ふ。り。本。摠。樹。生。は。そ。ま。ま。と。う。と

三徳人教珠よつかがりば連のまゝとて入なり
るをトめて今根とてひ出せり。南ちよ敷
聖おの伯母毛覺末尾とておがませし後聖
おた遷代時今一度は對面のためとてせあひ
終に抽續ありしよあけりふかり籍のこゑ志
とりかりしり

おけりも別とて受けも此書のまゝぬ置し曉も
と縁せよせあひしり。ねらひけ里ふの籍とて
そ。天曆元年夏具とてこのお世よあせあひ

一とて。たのちよと二町の森村内よ。此社とて
て松梅とており極て。天海とて物徳ありかり。
名物のかゝりひの南ちよ此丘尾の手とてかりとて
○後お寧府の天神系。夏聖おた遷の地なり。
た大に後原時卒とて遷よとてひあしつとて
せあひ。とてつわふ小薨御とて一徳とて年又十
七歳。一とてそとて天漢とて此社於二ふん徳
まより奇進

九六〇 河内乃のちまより



此の如く七十七身。新装のよき言ふは。猶うの像を
 宜敷作中て。因基と又同人なり。中興と宜敷上
 人の。尚うに善賢家の様は。名本あり。毎云
 甚のさうりに。枝と切て。所引の。應又款よき。別
 米三ふ余とあり。これと。資料とて。毛結の。難通
 踊躍念仏とて。め。さ。め。の。相と。なる。は。甚。い。一
 一。刑。者。小。活。速。の。糸。と。て。獄。や。の。形。死。せ
 る。若。た。と。さ。あ。う。道。に。ま。ま。法。の。り。交。承。は。た。如。橋。と
 人。を。ド。めて。執。行。ち。日。より。日。を。う。り。十。日。う。る。人



三日 夜叉王の終堂の終法書 末のくち草あり

三日 鷄合清涼殿に在りてあり 四 此院と水汁

に在る。じりいれ山吳堂なるものきよ山よ火とと色

てお汁の星に徳せられとぞ。今い此殿とてお小じ

けて此院とて入。三度此院かさる。之山 西松が清系

山 笑斎社より山 渚水 鶴系より 益 天王寺の太子堂

法事 己のくき系あり 益泉別当の演法者の法干。

無双の壮観なり 五 桃苑の法務 六 芝浦北邊

干 〇 江列石山より 〇 江別粟津系 〇 六列海辺

の塩干祝ふるあり

晋（宗）建仁寺用山忌洛陽祇園の西南小河あり。東山
建仁禪寺と号し。寺領八百八十二畝。西門流井
あり。建仁元年。金吾右軍源頼朝以建立用基業
西禅師（山）一系も村八天大王（山）修学も赤山明
神系。赤山といふ美玉の山也。名を山と神あり。赤山府
名と号し。げ神とあり。て祝して慈覺大師あり。
約して目の中にあり。弘法とあり。後せんとして。大師
約の舟にあり。名約とあり。ありあり（山）名村

赤山（山）教里赤山（山）云々あり

赤山（山）源儀大会（山）今日か十
赤山（山）一系も村修あり

赤山（山）石清の監附のあり（山）赤山（山）赤山（山）最勝（山）

赤山（山）花嚴会授戒も領二ふ二百一ふ日斗余。大

花嚴寺と号し。額あり。又玉も寺。又城大寺。又恒祝花

嚴寺。又令光の天王護まも。額八西大門。一聖文

帝社（山）天年勝宝元年。小建。令祠十六丈の敷也

の寺の像あり。東南院一代の門也。はちの八家（山）

寺といふ。三悔花嚴と名せり。せんを修養あり

ちんじんとく。西門南門の歌とありさる。しそ。菴。苑
志のまろり。○信濃下飯所大野村多。上飯所ハ
社領子なる祭神。健山名力命。これ大己貴命也。此
子なり。下飯所ハ社領音なる祭神。下照雅命。此
健山名力命の由所なり。天孫降臨の時。健山
名力神命。ふさひ。後と。こくに。おめて。神。は。神。
波神とて。これと。逐し。健山名力神。ふけて。信
濃。飯所。歌。よ。う。ひ。て。降。と。こ。ふ。て。い。り。く。こ。ふ。飯所
歌。と。ひ。て。大。己。貴。命。ゆ。つ。り。さ。う。て。等。我。有。と。せ。い。神。云

別天孫の命。ふさうり。ど。と。あり。よ。つ。て。神。は。神。
神。天孫。よ。つ。け。て。これ。と。ゆ。り。ぬ。これ。今。大。飯所。大
野。村。なり。坂。上。田。村。麿。懸。徒。退。治。の。立。敷。よ。よ
す。社。を。修。造。と。い。ま。う。り。ハ。神。を。お。た。大。礼。よ。て。奉。七
十。又。う。ら。ま。ゆ。り。と。あり

八日 ○佐々木尊云

九日 京泉涌古岡山長山 あり

十日 山 雄山法華会 神護國 祐と号 此 神

徳天白とれ此なり。八幡大和の此神也。より

光仁帝此山系創和氣法磨造立し。天長二年
 元海より移り。再興又光上人より。寺額二百二十
 十系やとうしむ系。小山。大云門。雲林院。雲
 木の系。今更の因名物よりいふ。案へ十日
 和列吉神の云云。付む見。山井手里。神童。系。務
 手。神。かり。小吉神といふ。

十一系永親堂。菅守大師忌。今日より十日まで
 此天衣礼。後今日。日台。全寺の形。教。て。執り
 十三系長藤堂。後白河院。此忌。又系下。寺町。寺額。二十

石。後白河法皇御建立。此系。親。わり。系。文。仏
 蓮華王院。後白河法皇の形。縁。因。性。後。三
 十二万堂。この寺。額。十。石。寺。余。寺。形。院。の。此。親
 あり。卒。忠。堂。なり。十一面。親。寺。の。像。一。子
 一神。と。安。堂。一。均。長。寺。院。と。号。以。後。又。後。白。河
 院。此。親。と。して。寺。辺。又。又。梵。字。と。して。寺。子。子
 神。と。造。立。し。げ。ち。と。蓮。華。王。院。と。号。し。け。り。此。親
 像。ハ。蓮。華。王。院。の。東。法。師。院。より。并。後。は。此。系
 十四系云生寺。大会。仏。寺。四。日。まで。中。堂。の。あ。り。て。備

醍醐公とつとめ。後々の和言とつら。又桑坊門大
文の西ち飯田十之右小三井ちと号次。又家持三
味ち。比奈流。壬生ちと号次。称徳天皇の御
宇。盤古和尙の用基なり。南ち以盤古は縁
あり。世人あやまつて和又神とらふ。

十五系 聖護院の妻。然神持現の系。山山勝火
の段。○勅字云。○隅田川大念仏。比川はじごと。
下総の勝。浅草川ともし。川上へ利根川なり。比
下木母とといふ。ちあつて。若田の何系梅丸の

塚としてわりの。その梅丸長として。徳人福徳
と。○江別比良系。○嚴嶋会。安藤の玉依
命。文治よつてせあふ。系神ハ市杵嶋姫なり。
天照大神。素盞尊の八坂瓊の曲玉とて
化生まは神と。市杵嶋姫命と号次。別は
此神なり。南社ハしら心保くじなり。まへ海
丸の神。右ハ松原なり。東の神の方。又清水さ
よ。かづら。これと云ふ。おといふ。此社三所。又わ
り。又かあれ。こふ引のこて。南ハ三十三石。

東西に又居れ廻廊わり塩より又の廻廊板
爰の下まで海とありといふとと。波の干時ハ
又干町をりれ白砂とあり塩より小。船中廻
廊オそまのりあり。神威の嚴重を云はれ終
神あり此正神の境と。といはれうへよりけり
此簾の下にけり

△十六△山小山系系まのり

△十八△掛列淨光寺親善懺法。河辺船よりわり

○掛列大新寺親善會。氏庫船よりわり摩尼山

と号は②淺茅系三社控現として淺茅寺
の池より。己卯己未酉亥ノ年此は瑞年よわ
り○懐列ぬん丸此親法。大倉若小河り。社祭日
十石系神梯中人丸の灵あり。じうへ毎月十八
日和寺示して。あはれありしとあり

△十九△山 淺茅清涼寺。秋也西夏此身拭

△廿一△系系弘法大師此親法。仁和寺より雄回り。但

ち雄は日えり。女人系諸とて雜集とて。②此は

たがひの此親②二本板。正覺院。弘法大師此親

春
みんそこの内弘法大師曰十二薬の乳像は自
作かり（十）十幡院弘法大師は乳像宗（元）元興
寺の辺（元）元興寺の東より弘法大師の園基石
の山堂より北麓とつらりこあり

△（二）山二の瀬糸

△（三）夜天王寺今文の山神おりの舞系わり

△（四）五日若礼拜傳二の夏たあゆつとむ

△（五）山二の山神おりの（十）十幡院弘法大師は乳像宗（元）元興

武天白乃山系剣用基親覺傳正（元）元興寺

六乃文珠をさし。傳正の他なりち銀二十
石大塔のえりうられ給し。大般（元）元興寺
今小所り（十）十幡院弘法大師は乳像宗（元）元興
△（六）比叡山（元）元興寺よりとつらりこあり

諸國年中事案之有一 終

諸國中納事卷之四二

四月

△**甲子** 祭者回乃祭

△**上卯** 祭者祭ふこつ時甲申。元明天皇也。和銅四年

は神をどめて。祭者祭ふこつ時甲申。元明天皇也。和銅四年

ふあり。平安城ふ祭とらうされしあり。八千四百年

祭あり。は神祭監より。百九十七歳とて。延

喜八年。友原時平也。三ヶの社と造立しあり。

衣倉の祀神也。百姓は持事といのり商人の愛

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

均とねぐひ。工業ハ瘠磨とねぐひ。公業成ると
又た。比祚の利益とかうとといふ事か。し。
され。比祚の天子徳候と。又た。徳又じうひ。食
事一の時ハ。ヒ笑と。あうと。はう。はう。と。て。飯と
さうて。膳のころ。うに。と。う。が。祚。又。備。あ。ひ
一と。そ。山。崎。ま。つ。り。◎。後。若。系。後。◎。和。列。三。攝。祭
城。上。新。ふ。た。せ。あ。ふ。社。祭。百。七。十。五。名。祭。祚。一。社。大。己
是。命。又。大。己。命。一。の。名。井。二。の。名。井。樓。門。社。殿。室。
秀。あ。ん。ど。だ。り。り。あ。り。て。祚。殿。ハ。也。奥。儀。抄。云。

社乃おのせぬあやととて。里人ととつりあり
これ。鳥。あ。ま。こ。事。り。て。は。さ。や。あ。り。踏。こ。が
て。そ。本。さ。と。あ。の。く。ら。へ。て。ゆ。さ。り。ひ。り。祚。乃
ち。う。ひ。と。知。て。そ。後。の。徳。う。さ。り。と。あ。り。◎。和。列。八
樓。祭。ハ。樂。又。社。然。智。河。と。も。て。あ。ふ。◎。統。あ。祭
傳。祭。祭。祚。一。社。思。惟。命。素。盞。鳥。尊。の。由。子。也
甲辰。山。八。瀨。天。祚。祭。二。の。時。な。り。め。◎。向。日。の。祚
ま。つ。り。山。城。の。由。し。刻。教。西。忌。社。祭。二。十。七。名。祭。祚。一
祭。向。日。祚。祭。素。盞。鳥。命。の。由。孫。大。藏。祚。の。由。子。な。り

命の由子に後冷泉院の由なり。水取天年六月
十六日小社と遠き一あり。○宗の後の玉取山八
瀬の日記あり。○江別山玉取。天智天皇の由なり。小
ちどめて水徳座は水取礼の。琴の由。敏大賢の本
より。神事。神祠と養と。唐詩よかめて
先皇のよとく。恒世が後。院。院の由。料と。神
事といふ。一して。多る事。の。桓。氏。天。皇。延。暦。十。年
より。一。由。り。官。幣。と。ま。り。け。り。事。の。後。三。條。院。延
久。の。由。に。由。り。二。日。よ。り。一。と。め。て。お。か。さ。る。又。は。水。取

のよどめ。延文年中。依あり。後の。御あり。と。そ。
申。二。三。の。時。の。後。の。申。と。り。ら。由。申。の。こ。と。に。由。
出。給。ふ。より。水。徳。一。般。日。中。け。ら。出。給。大。津
より。御。も。同。は。出。る。あり。

上。酒。山。を。秦。祭。山。松。尾。大。明。神。祭。山。城。の。小。宮。
神。祭。ふ。あり。社。祭。九。百。亦。不。余。祭。神。二。座。大。山。明。
神。月。禊。神。祭。後。の。由。祀。玉。依。作。鴨。川。よ。り。取。
の。丹。塗。の。知。化。して。神。と。あり。松。尾。大。明。神。
これ。あり。文。武。夫。皇。の。由。なり。大。室。九。年。秦。祭。

御達立せり。以強西ハ七条朱蔭社飲百口十
めん山梅のまゝ系山城葛北新梅津里小た
せあふ社飲六十八系社に産酒解社志山祇命大表
子社かまき井命小若子社志山酒解子社志山祇命大表
人曾十二代。後藏の天白曾の石楹林白曾店御
子。あふとあげさあひ。酒解二産の酒社よいの
りあへ。感念のちる。あり。ころまら懐念
ま。御。南社白砂とて。山産の下ふ。と
ち子と産生。あふ。仁昭天白曾。仁昭即位の

後。社産と追号。嘉禄年中。山外。祖父。橘氏。酒
友と。酒解の社よ合也。而。母。白曾。店と。酒解。子。代
社よ合也。獲々。梓号。六。火。と。出。身。と。若子
の社よ祝。橘氏の。祖。廟。と。あり。あふ。今よ
むりて。世人。年。産。と。あり。南。社。の。砂。と。常。禰
およつ。む。ひ。ま。い。風。あり。○。江。列。本。系。○。河
内。系。南。系。社。系。号。多。天。白。曾。の。外。祖。父。南
系。氏。と。あり。仁。昭。年。日。月。十。日。も。母。と。社。産。と
中。酉。系。と。賀。後。義。丸。ふ。二。つ。の。内。系。と。計。の。二。附。ハ。南。社



の葵あかり。山とむらりの比叡心。寺とむらりの
 三井ち。苑とけの操といふがごとく。けのあかり
 の天白の池のふ。とらどまねりけ目社家あり
 天子の軍家。その法家へ葵と秋と天子の
 水簾おもて葵とけらり。そればけのあかり。久
 安の終り。けりして社家のねがひよありて。光祿
 七年をたてて。かたてのあかり。

中成系 土鏡系 園包のあかり

初巻 世大津系

中庚 山崎 祓祭 本志 中院 大門 伊友 池裏 八石
小坂 小淵 仙徳寺 大掃 寺村 木の 神あり あり

中己 山戸 寺井 出 神村 上 神 来 迎 寺 久 我 久 世 本
の 神 あり

朔旦 内 所 交 祭 掃 戸 寮 冬 の 祀 祭 を 徹 して 夏 秋 祭
と なる 山 を 弘 大 船 神 あり 賀 祭 の 氏 人 誘 ち 申 せ
社 系 悔 り よ 虎 枝 せ と り 互 上 下 大 小 と 多
か と せ ち ち ち いた つ じ せ と せ ち 芝 砂 を ち ち
て ち ち あり け ち ち ち 連 祀 の 芝 ち ち

仏生會。於人の業あり。これと奇しく云と云
倍と鼻長といふ也

九日 宗法あり比る宗 法ありは法守を堂のう
しる。名あり大己貴命なり

十二 宗二条山城番前入洛

十三 宗二条山城番前入り 但、東小倉印此と云

十四 宗二条山城番前入洛 ○和列 高麻 結信高

法より尊下教よりあり。ち然二百五。二上山方法。法
釋林と号は。高吉の曼陀羅ハ仲お姫の制

何事。世小あり孫く知るなり。九百十余年と
へて。延宝年中。やありと補ひ教。とわ
ふせられ。ふく室。製よおさめ。加場よハ新橋
の曼陀羅と云。きられ。り。新橋。まんごうハ
崇徳院の山守。保延二年。勅定。はらて。お集り
十五 宗二条山城番前入洛 ○和列 高麻 結信高
拂年およ天王ち去塔。年た。く。舞系あり ⑫
小松川。若乃守ち。仲お姫。志中。お姫。の。化阿弥。施の
傳。掛。る。徳。人。羅。集。と。和。列。高。麻。ち。中。お。姫。と

△（五） 甲人飛の庭とうる。前二月ひのあはれの
 前とあひげ。げ日とり六月日月まで

△（四） 東大仏日をふふ。東小北山神よりまじりへけはせと致

六月

○佐勢介文清田うへ日（三） 日宮宮田植（九）

△（二） 中申 奥列相る中村。妙現大ふふ神さ

△（一） 朔日 山上かきあわしきあへ。江列松む字種め神さ

△（一） 二日 南初眉間ち。原も天白むけさ。後用快療家
 の傍あつまり法事とりあふ。依保山眉あふと



此懐妊の時安産の祈願のためよこんのうら。春
子へ田村丸丸如く田村將軍此處へ塔の東方に
あり。○長室寺七番段長若武揚列位若部平
親元より河り。王金山と号し。南ちの言浄云
二宗慈孝なり。田基へ坂の上田村丸丸如く
磯天白の冠巻の妃ありましくさみりと崩落
のうらびとろを逆原の地と申す。引こり長治
ひて慈心大姉と申す。さるにうらて南ち小田村
堂河り。像へ別田村丸丸子廣忠の像と申す。いふよ

廣忠の旧宅の跡あり。されへ坂上此家
後七段段此末孫今よ申す。いふよ。是と
と平井傳と申す。毎の今日七段段長若武と
て合ふ。此坂中此家

世四 江あこまより

世八 江天神より

世八 東下京元中長寺系。東新地長寺より。理丹遊
高下町よませあふ。此社へ松系。此社へ松系。此社へ松系
とひうく。又系此二位後此の勅傳なり。

途らるものいば雨の去とうけて地よりうづこ
いづびよりのちゆくえ。方隅のいづりひまぬる
ゆとど。恒者の社に遠受の時はいまこも候し
しぬらんかり。毎年け日去標と。糸後の今うけ
えり常いあ社のあふ。向泉あせうる。

六月

①山妙のまはるひ日不 洛死を家院の由連を周山
開山 惠玄 禪師 かり。ち依 皇 貞 十 五 山 大 徳 ち 法 なる
ひ 日 之 皇 ②山 派 激 天 新 ち 法 なるひ 日 之 皇 ③六月 中

より八月のいままで。いましあま徳小こみ船つる

○江列多賀社神より 徳 日 之 皇

④ 水 宮 じ り 水 と 秋 と ⑤ 忌 日 此 淨 飯 と 候 と

忌日といふ不浄の火とうらうりあり申すや。⑥ 祇園
會の神のらど。祇園の社より。⑦ 祇園を神と
たのむ。雄の忠なるひ。今日より八月まで。かり。
らど。神護ちと号せし。と。桓武天皇。白。此。池
宇。延暦二十一年。神護。赤。祇。と。改らる。弘法大
師。の。新。八。懐。丈。が。う。の。神。納。涼。坊。よ

安宅せり。は西列大師とてそのひつは坊あり。
持守八儀大聖菩薩の弘法大師の正尊あり。た
らひよ高麗とてうつしあひけ放互に記とい
たり。授戒灌頂の式一巻大師の尊号とて宝冠
よあり。紺紙令泥連筆の一切經本ははのと
に無名なりとてうつしあひけ大師の尊号とて
の心あり。廣風一行大師の筆あり。十二天の
廣風。宝冠法眼の尊号あり。大師の尊号あり。た
独会珠友界のまんごう示。其宝をうけし

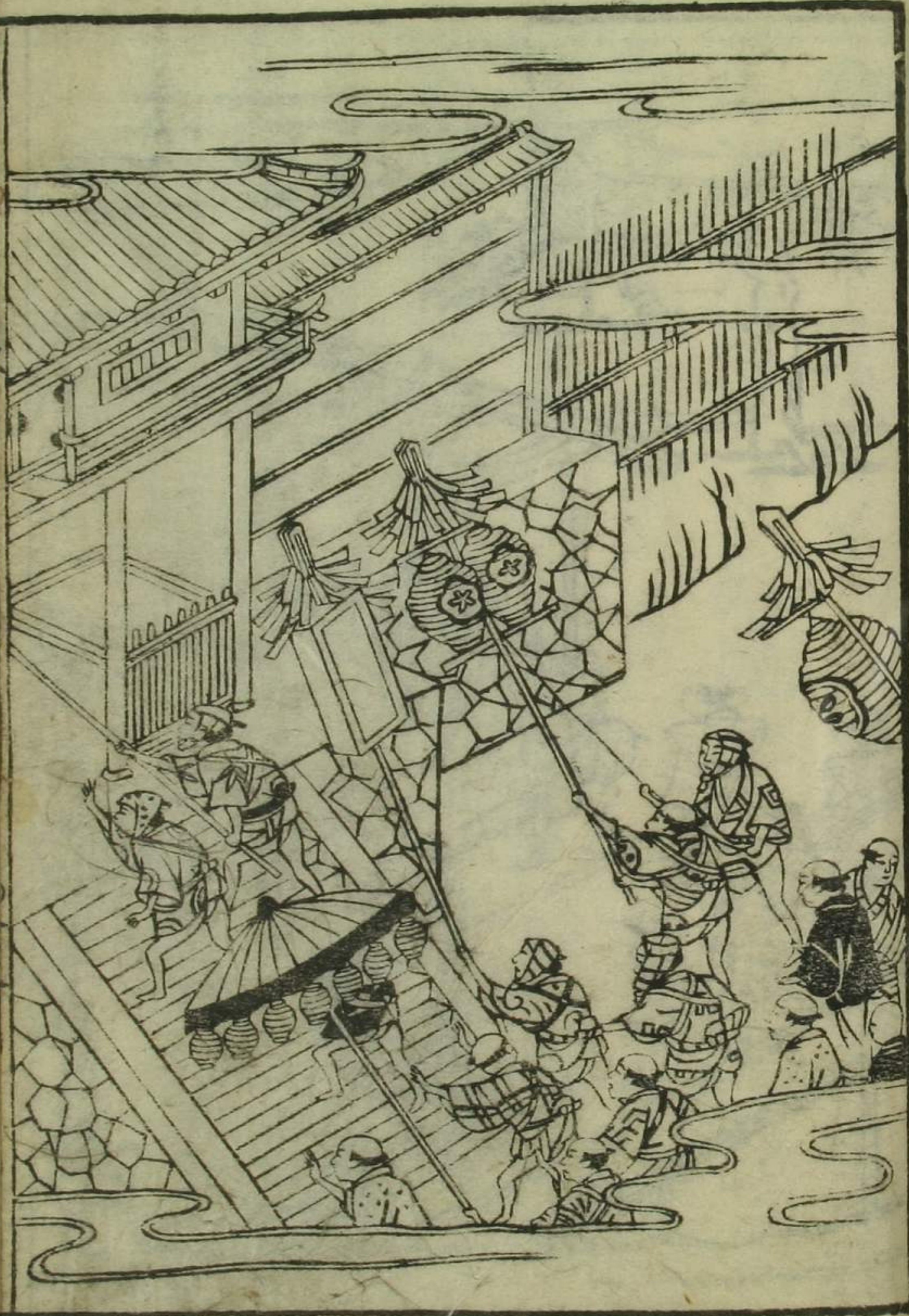
○水室まつり ④ 務曼洗の務曼と云。務列大坂新
法あり。水坂坂のうへなり。中そのいむ深の玉并
小友室塔。大日如来入。そのも聖徳太子。推古天
王の勅よあり。朝廷よて務曼經を講じ。并
よ疏記を經しあり。それよりして天下泰平
に。四海安穩あり。くべ。天皇御治るべ。あひく
まししくさ。ち子傳よくくあり。は日を後く
んと由らるく。⑤ 富士山水室の祀祝 ⑥ 駒込の富士
まつり。駒込のまゝよあり。ふよよ持現のまゝよ

せあふ。げ日水鉄徳色こころのるあり。事後ごごはと
かうあり。めくあり。建富士場たけふじば今日より廿日
まで。人自七代孝皇天自即位又年。一教
涌出いづ。うろ名山あり。山上の社に平改天自。大同
元年小建立あり。法皇大内神の靈たまは本苑
笑那姫命えなひめのみこと之役の行者をめては上小のがまり
そは弘法大師こうぼうだいし為法也なりはつと。あひの佛ぶつ像とさ
さみの上よ。あり。れあり。八葉とて絶たぎたつ川の
ごとくあり。はつりに縁ゆかりく。八あり。隣りん玉の人の

百日ひゃくにち精しょうをして。げ日より禪定ぜんじやうとさる。を以の
み人へ。七日しちにち精しょうを少く。禪定ぜんじやうとを名来近ちかに
湖うみあり。一教よ涌出いづせり。そは心とわんわんとさくよ
ひつひつふ。佛ぶつ像ざう石いし櫃び山さんへへ神かみちまあり。佛ぶつと新しん
居い教きやうよあり。思おも玉たま色いろ造ぞう海かい。六十むそく里り敷しき圓えんのの中ちゆうににあ
て。ふりより十二里あり。まの山あり。六月りくご一いつ日
二日にち三日さんじつあて。集しゆ積せきへあり。げつげつ縁ゆかりへへ里りああ神かみよ
れとあさむりあり

三目さんめく系けい祇園ぎえんと云いの山さんとさる

同日 六月念三日 五馬より 江戸永田のる場ふを
 せり 社名 永田山 号 八日 社名 八日 社名
 王 権現 方り 比叡山 乃 才 二世 慈光 大 師 仏
 法 弘 通 教 生 源 流 の た め 氏 亮 の 子 河 越 小
 たり 今 の 皇 社 山 と ひ こと 皇 社 の 教 法 弘
 初 り め め ひ 一 時 叡 山 乃 山 王 二 十 一 社 上 中 下 此
 内 一 社 づ こと め こと わ げ め 二 所 の 具 社 と け あり 物
 徳 一 あり ひ 一 かり こと 後 大 田 入 道 灌 注 する 一
 居 地 せ たり 時 文 治 年 中 此 社 社 名 皇 社 山





の境内より勧修寺なる所より水産三年田原
 又よよひに今日の水産の築心よりうら
 かりの^{その}舞場まつり

五日 京 祇園 念心 初め 牛頭天王 ^{八幡町}

六日 京 祇園 念心の井 念心 馬丸 延綿 水産

上町 京の仲やにわたり。毎夜 祇園の神事
 氏人はあまのつとめと清女。社系より 京祇園
 念心 山坪 一二の園より。此のつとめ 念心 祇園
 て 雑多 ^{これ} といふこと 京祇園 念心 山坪 乃

人形徳令の物申のらくし成のらくと
るかり(1)にりやん町半次天王出

七日(2)系祇園を 祇園社へ山遊む電宮代新八飯

乃によあり天照大神との水舟(3)系(4)馬馬

少してあるしへ(5)塔天神と号し又(6)半次

天王とと(7)し(8)なる(9) 船山(10)舟と(11)し(12) 虫(13)舟

鶴(14)舟 月(15)舟 笠(16)舟 誂(17)鼓(18)舟 菊(19)水(20)舟 放(21)下(22)舟

舟(23)舟 郭(24)巨(25)山 孟(26)宗(27)山 琴(28)破(29)山 木(30)城(31)山 老(32)子(33)山

浦(34)出(35)山 笠(36)舟 二(37)舟 あり(38)山 八(39)徳(40)山 白(41)系(42)天(43)山 天(44)神

山伏山(1)りま(2)方(3)山 傑(4)昌(5)山(6)い(7)ん(8)山(9) 是(10)未(11)なり

夕(12)々(13)中(14)社(15)あり(16) 日(17)系(18)系(19)極(20)此(21)山(22)う(23)び(24)下(25)ま(26)く(27)水(28)樂

と(29)出(30)し(31)なる(32) 十(33)日(34)ま(35)で(36)い(37)う(38)び(39)なり(40) 又(41)は(42)お(43)り

十八(44)日の(45)東(46)ま(47)で(48)日(49)系(50)河(51)系(52)此(53)夕(54)ま(55)で(56)み(57)お(58)て(59)河(60)系(61)表

小(62)教(63)百(64)新(65)此(66)茶(67)店(68)と(69)る(70)を(71)う(72)べ(73)河(74)中(75)へ(76)衆(77)と(78)い(79)ぶ

し(80)本(81)極(82)報(83)集(84)し(85)て(86)極(87)奥(88)た(89)ら(90)ひ(91)切(92) 洛(93)中

舟(94)一(95)乃(96)壯(97)親(98)なり(99) (100)南(101)傳(102)る(103)町(104)半(105)次(106)天(107)王(108)出

(109) 河(110)系(111)川(112)天(113)王(114)ま(115)り(116) 午(117)次(118) (119) 奥(120)極(121)ち(122)の(123)も(124)巖(125)流(126)舟(127)也

天(128)へ(129)伝(130)人(131)系(132)極(133) (134) 法(135)苑(136)ち(137)の(138)会(139)式(140)

九日 系小舟天像交九夜まつり 東向の観音堂
より。九夜系詣るるなり。系 祇堂と云十日日乃
山と云くらのゆり今節の山今節の小舟町天王の山也

十日 内清神の山ト 祇堂の友人。まよ玉神よ
山清くみおらん申と。うらなひ奏とる故に

系吉田西天王山也。山山門也。流源伝也

十一月 内月次のまつり。十二月おとわり。是ハ六月十二

月。一年お二夜法社へ遊てくるとなす。世のまつり

系 今食 灵龜二年六月より。ちり。世のまつり

熱湯祇の系 漢系よとせあふ

十二 系 祇堂と云山船引と云東頂妙ちのまつり

二条の 森場三村の祇まつり。和泉の玉大を祇

塩穴の下条。田口村よとせあふ。密系山大会も

の徳守かり。はちの世は場の大ちといふこれなり。

はは祇ハ倅特徳子の山子。事務合務玉と云様

きとやなれり。塩梅の事とつうごりありあは塩

津く老翁と云つり。これ海産三粒の山祇

なり。じり祇功自伝。三韓と伝せとせ給り時。

後者の神社とわらふ道は湯の浦より新向わ
つしより。はるる後者おみまとして一神列
乃神社あり。これよりして昭暦元年。後者と
一同より造言あり。あり。湯の浦より村。開
け村。奈村。げ。三ヶ村の氏社とす。ま。ゆ。ゆ。
三村の大社社と号は。い。あ。へ。聖武天皇。皇
と。して。乃。基。が。う。つ。と。用。基。と。か。い。ひ。て。あり。
ま。な。ち。の。お。あ。て。伏。く。れ。帝。の。禰。前。院。宣。代
代。お。軍。家。の。は。表。出。後。院。の。伏。木。殿。守。り

十三 東 祇園と云ふの園とあり。同。東。妙。蓮。寺。出。づ。ひ
寺。此。内。五。丈。大。東。寺。於。十。五。園。基。八。日。夜。上。人。之
東。今。出。川。法。性。寺。出。づ。ひ。東。祇。園。と。云。ふ。又。八。松。の
人。形。石。物。同。也。

十四 東 祇園と云 物山 船木と云ふは 橋弁交山
黒主山 禊山 八幡山 観音山 後引若山 波瀬
山 淨心山 齋山 船辨乞中と云ふは 夕々三奈
礼わり 東 祇園 子 水井と云ふは 但 祇園 三
奈 延 爲 丸 の 辻 と 云。此。う。か。さ。る。時。に。山。松。尾。社

○行生鴻まつり 別法并船湖中まつりせ給
小社於二百石社傍に中業寺とて天台の傍に
竹生鴻まつり巖石多精宝珠あり物かかす
本朝五奇具のそまつりなり。孝具天皇の
日よまつり湖ありとあり。京初天皇十三年
又湖中まつり鴻まつりあり。涌出せりといひ
系社一社福念祝命と号は是とありなり
才女也 ○熱田のまつり 社於七百十石尾徳の

玉皇智教まつりあり。大夏司の多ありなり
一社。天村雲の帆かり今六社といひ大夏司
日本天皇の末文の素盞尊也。南文の素盞
初文の伊弉册也。小文の倉稻祝命。中央の天
照大神也。社傳の世まつりなく。初めなれに
畧也 ○倭後朝天皇まつり系社三社朝の
祇園と号は平次天皇あり。疫禍の社と号は
十五京西園寺の妙音尊也。東海華度法也といひ
京極也。今出川下三所月古也。又十石清和天皇の

ふ事あり。○江別竹生湯あり。○尾張湯
湯あり。海部湯あり。社祭子二百ふ祭
社山城の祇園あり。中殿素盞鳴子
東殿稲田。西殿八王古。欽明天王即位の
と。げ比よ来。疫氣妖災と。らへ
せあり。げ比の冥路あり。祭八十
日。十日又日あり。みまつり。あて。桃打を
あてくと。し。たり。○安藝い。し。あ。あ。
今日より。十日中。の。る。大。る。○。あ。あ。

郊の祇園と云。○を。あ。小。念。の。祇園と云。○
伴。場。祭。神。頭。の。あ。れ。まつり。系。官。の。礼。終
と。る。は。作。大。神。文。の。は。妹。と。り
十六日。嘉祥の。水。祝。 祐。裏。院。法。云。家。祭。の
水。中。嘉。祥。の。水。祝。○伴。場。亦。文。の。水。あ。出。家
と。社。系。と。る。あり。○。瀆。波。の。玉。志。は。ち。まつり
十七日。東。北。東。向。祝。音。ふ。日。まつり。用。儀。あり。十八日
東。お。ま。ち。織。法。三。門。の。園。上。り。て。祝。ひ。一。統。は。
子。神。と。は。く。あり。上。立。臺。鳥。丸。の。東。よ。あり。

古伝子八百三十ふ余。後小松院の由う。明徳三年
二月。御軍義満公の建立。又山の毛一山
山葛川。取又能。新山。又山。神系。標。摩耶山
まのり。○江別三井。古。親。高。堂。の高。中。び。親。大
津。中。此。古。の。此。れ。と。焼。かり。○伊。勢。肉。又。此。此。系
○安藝。嚴。嶋。の。ま。の。り。系。神。市。神。嶋。那。命。推。古。矣
皇。又。年。作。伯。祿。藏。と。し。て。焼。して。び。お。よ。此。と。衆
あ。の。り。此。社。へ。年。お。よ。玉。清。誓。再。興。い。の。ひ。を。後。弘
治。二。年。陶。崎。賢。滅。亡。の。時。苦。火。よ。り。い。て。回。祿

廿一と大に元就まゝに再興しあり

十八系 祇園社 雲わくひひ 又月晦日のふちか

山 山崎 宝古 親高 用住 山 葛川 神より 徳美 小を

敬業とて 事あり 山門の 庭 流これと 焼りて 口

管 天 王 寺 あり 午 辰 天 主 之 丑 卯 己 未 酉 亥 の 年

にあり

十九系 所子 洗 糸 あり 毎日 下 契 後 此 社 大 神 矣

かり 社 此 石 拾 不 余 糸 神 二 産 玉 依 姫 大 己

命 下 玉 依 姫 八 列 富 神 の 母 かり 大 己 命

ハ素盞爲そののりふくばに洗みまへ所謂友
越の後く邪神とらひかこむる也よ。和備とい
へり。素戔尊のこころみ。蘇我のみよの母も味まひ

三十一山 鶴子北竹切 洛陽の小三里あり

廿一系 大牟院史をくひち町曰素小あり。佐長との
國麻葉日蓮宗の夜々々々どい法々の○紀會後
今日より晦日まで ④いかりの交は神不特号町よ
ませりふに徳天自かりとつり

廿二山 柵の尾れ虫ぞくひ 今日より廿七日まで ④水子也

の後鳥羽院の沙路開帳是に宸筆出だすい
④ 神摩交心らひ 系神一神神功自后使
矣中はまらるる所の。神摩神とい別かり。神名
帳よのまらるる所ハ。神功自后凱旋の目ば取よ
あつて。飲食一あつて。神摩とあづくことあり。
神功自后三韓に返治あつて。凱旋の時下
あつて。神徳神あつて。せあひ。るよ。小体息一あ
今に八杉屋のこよ。ま。同んわり。ま。後。織の女
ま。ま。つて。お。お。となりし。ま。ま。式。小。あり。今に



今日神カミ佐サはよヨ勢セとトそソまマつツあり。むムしシハ
 勢セとトそソまマつツあり。むムしシハ
 一とイツかりカづクつツ道ミチのノ代ダイよりヨリさサきキ徳トク王オウ府フ摩マ
 大ダイ形ケイ律リツとト勅チク年ネンとトあアいイトトれレしシそソ又マタ貞チカ和ワ契ケイ
 年ネン正テイ月ゲツ朔シャク日ニチ足ソク利リもモ氏ウヂ公キミのノおオこコめメらラしシ報ホウ事ジ今イマ
 よヨあアりリ。八ハチ朝アサ庭テイのノ上ウヘよりヨリ漢カン所ショ町チヨウ一イツ町チヨウありアリ
 つツしシ。そソほホ今イマのノ漢カン辺ヘよりヨリつツしシなりナリありアリ
 ①三サン山サン松ソウのノ尾ビ律リツあアれレ徳トク王オウ府フ摩マのノ東トウ寺ジ町チヨウ光クワウ寺ジ
 七シチとトまマんマンどドうドウ出デづヅらラふフ

ちし内通小川よる後院天白里以字日傍
上人系剣あり。身真へ加賀中納言菅原利
老のて。天後天神也。後日神樂なり。あめ地く
るまおがし。免くし。之は親なり。此へび。西へし。あ
へ京町よわじ。中古より。あひと。徳より。う
まう。け日。を。後。海。あ。よ。教。子。れ。あ。糸。さ。う。う。免
持。の。極。樂。と。り。被。を。被。の。ひ。こ。ま。上。よ。海
と。○丹後切戸の文珠を。徳人くらん。也。と。○丹後
橋立のまつり。神代九世よ。あ。り。て。出。現。せ。し。ゆ。

九世の戸と。とり。切戸の文珠と。丹後府中
の中。る。あり。東。西。れ。を。こ。一。里。南。水。海。あり
橋立の東より。あり。也。三町を。り。松。と。う。り。あり。
水。より。南。へ。う。と。と。り。橋立の。後。海。へ。村。と。氏
家。あり。文珠堂の。辺。ハ。松。原。あり

○**七六**○**越**あ。目。永。嶽。まつり。在。六。日。より。在。八。日。まで
あり。伊。勢。系。神。現。の。変。化。あり。常。へ。系。後。あり
氏。年。中。よ。三。ヶ。月。六。日。男。女。系。後。と。これ。と。嶽
嶺。と。あり

知り④神祇官の意世の此類とそく⑤上賀
春あす月の神夕祭大の月八廿九日晦日七月一日
小の月八廿八日廿九日七月一日元二日ひくあると
⑥建仁寺泉涌寺布薩戒山西の山を洗川
の此後。吾秦の東小よわりびくひ辺り。飛鳥
此新渡わりしとぞびあよび名わり今日廣隆
おの傍沿び川中て後と幾とろなり⑦後佐
の此後。傍中のとろび。なりよのとせと。そか本
津難波をくあくより移り地つたりよのちちう

ちんさましく、美とつては⑧玉造の輪船友の
此神系大の月八廿九日小の月八廿九日同
日かり⑨あす月後○大和石と布多の社乃
まうり○河内石岩船山多り交建船よわり
八乃むりの紫船一艘山のりてさしあかり
○江列幸勝中ひり。山王此末社あてあす
の社とよふこれなり

諸國年中事卷之第二終

徳永年中の事卷之中三

七月

朔日(山)上賀茂御正月に結わり(京)好徳も忠棟
洛乃と東朝比(菴)法皇号義まつり。子日嘗くとふ

二日(山)鳥羽の安樂寺法皇鳥羽洛御忌(山)等
持沙虫さうし。小山秘法山のもれふりくち。然皇二

十日坂光嚴院延文年中御軍号氏公建之
三日(京)桐玉ち松鴨朝あて。中和門院の御忌。親

年山お玉水天福ちと号次

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

△**二日** 森 廣瀬 終田のまつり 日月小あかり

△**六日** 京 遠仁寺 用心忌 冥室つるまのまつり

△**六日** 京 北神天儀 文由寺 水入り (京) 高島寺 施燈忌

右 昼什物の十六種 漢の像とくろり

△**七日** 四 七夕 内膳司より 素麺と佃をど (四) 五巧尊

△**廿日** 中 中てい 仁徳天皇 此由附 天長十年とめて

おこつるを 法衣の表よ入て 中殿の庭よ 札田脚

とて 籠基なるやとあく 籠火あり 札のうへよ

あまののものと 籠し 籠の琴あまどと 籠のうへ

よ 火懸よ 籠とくろり 籠とたご 水懸よ 籠と

つて 籠の早とくろり 籠と 籠とくろり 籠と

とくろり 籠とくろり 籠とくろり 籠とくろり

つて 籠とくろり 籠とくろり 籠とくろり

つて 籠とくろり 籠とくろり 籠とくろり

つて 籠とくろり 籠とくろり 籠とくろり

つて 籠とくろり 籠とくろり 籠とくろり

つて 籠とくろり 籠とくろり 籠とくろり

△**京** 山 山 山 山 山 山 山 山 山 山

岡山二道社縁登上人(東山依家)入(天正)子堂法寺(系)あり(大念仏)あり(七)夜音室物の(七)夕の(祀)此室物の(出)る(九)東西(中)の(九)年(中)あり(和)列(上)布(敷)の(社)後(一)獲(摩)あり

八日(東)赤子の(文)珠(念)仁(天)白(天)長(十)年(大)法(解)春(長)あり(七)夜(中)あり(念)仏(九)日(十)日(夜)日(之)六(波)舟(の)東(世)よ(六)夜(と)子(聖)買(と)じ(久)人(と)あ(び)あ(人)

徳人(類)集(一)。(格)と(實)久(ち)あり(天)中(山)子(日)新

十日(東)法(有)寺(子)日(中)あり(天)王(子)日(中)あり

江(親)善(子)日(中)あり

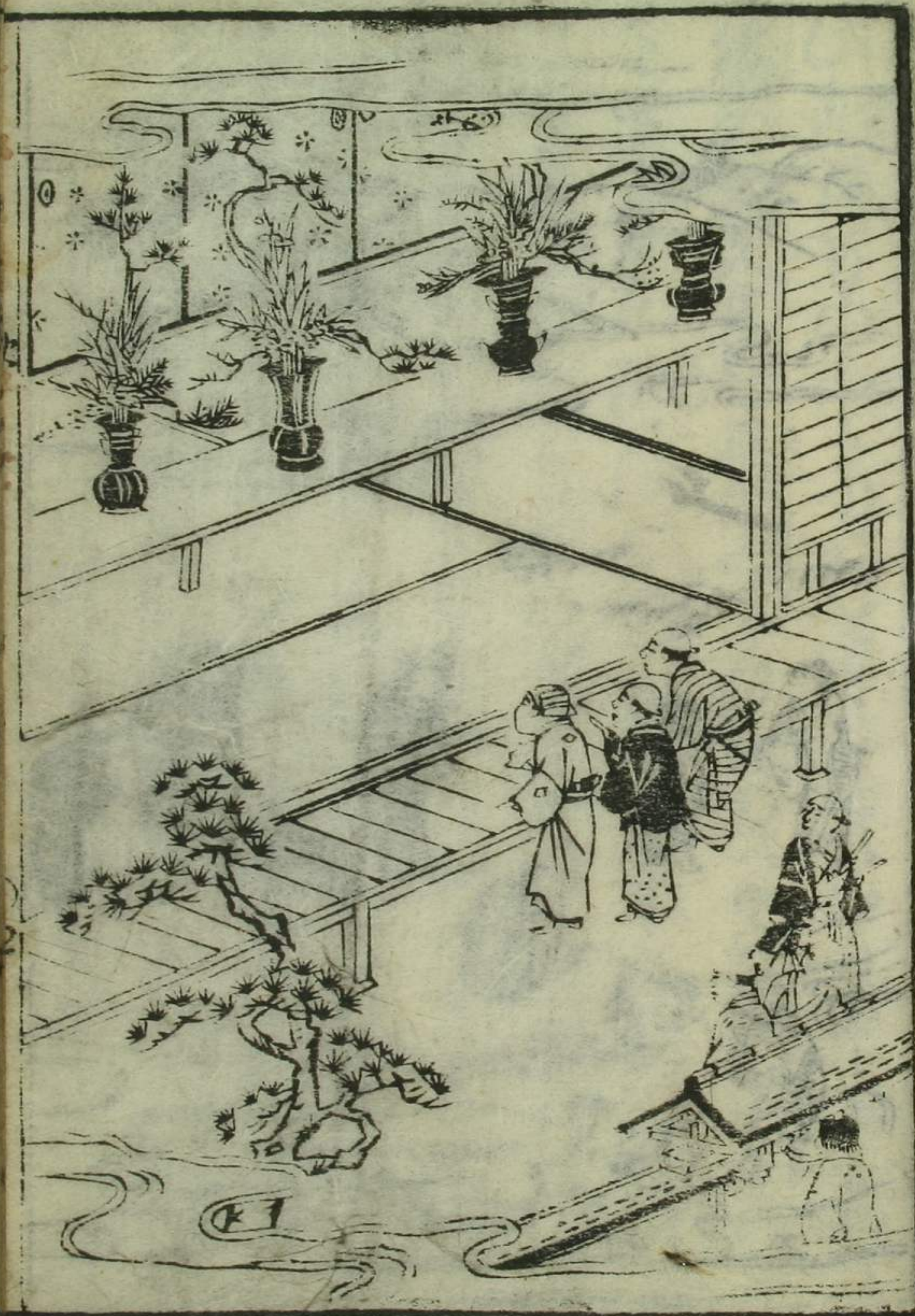
十三(東)赤(子)赤(子)の(灯)籠(今)日(中)あり(天)正(元)年(西)其(嶽)山(の)龍(燈)鬼(有)灯(念)室(治)川(中)あり(此)と(燈)也(山)嶽(赤)字(治)元(年)和(田)よ(有)り(寺)後(田)石(の)後(為)流(の)地(字)万(治)元(年)源(元)禪(師)赤(氏)よ(下)向(し)向(年)比(地)と(な)ま(つ)り(物)産(と)建(立)し(一)万(後)禪(寺)と(号)し(江)神(志)殿(入)灯(籠)と(し)ま(る)今(日)あり

十八日まて(2)まきまつりもち洋十二坊よりおど
りさうり

(14) 孟蒙孟云 内務寮御前孟徳とそけい
の世代のもものるふ。夏のお祭とくくし御おあ
り。天平又自七月よりめて孟蒙と大振威よ
そけいといふ。びくおめ天自の由とくくし御
おめて須弥山のくちと能り孟蒙と云と
もいけらまて(1)丹波のくちびり打鼓まつり

(15) 林葉の打鼓。十四日より今日まて(1) 和智恵

院大施餓鬼。三門めて修と(1) 泉涌ちの内新
昔光寺。河津池田庄今日より十七日まて(1) 莫
薬の大施餓鬼(1) 松ヶ崎郡目おどり(1) 岩
屋不動。子日まつり今日より(1) 岩倉 長谷 観音
打鼓おどり(1) 八幡 安居の尻(1) 天正寺 後堂一夜
結彩。年のくくしまつり(1) 小北天社お祭り(1) 櫻木
施餓鬼。江戸白紙お祭り。お祭と云く号は。寛
文年中。莫薬の本殿お祭り(1) 淡路
王権現まつり。とまあり(1) 播磨 船場 惣社大の



林原が戦士集まると。軍旗の威候とる人(五三)
 井原のり今日より女人と集福と(五三)五日
 候候の所れ内室物。徳人抱えんとおこわり
 十(五)山(五)全園ちまのり(五)月(五)あ(五)り(五)乳(五)の(五)集(五)念(五)仏(五)踊
昨日今日 山(五)小山村(五)石(五)物(五)ま(五)の(五)り(五)山(五)勝(五)家(五)ま(五)の(五)り(五)ち(五)や(五)り(五)系(五)を
昨日今日 系(五)子(五)女(五)園(五)廣(五)雲(五)ま(五)の(五)り(五)山(五)勝(五)家(五)ま(五)の(五)り(五)ち(五)や(五)り(五)系(五)を
 其の送火(五)の(五)取(五)天(五)ち(五)の(五)時(五)に(五)御(五)堂(五)見(五)ら(五)り(五)大(五)の(五)宮(五)邊
 寺村の上(五)妙(五)法(五)の(五)字(五)松(五)が(五)修(五)村(五)い(五)の(五)字
 多(五)原(五)物(五)舟(五)西(五)交(五)後(五)を(五)舟(五)西(五)山(五)一(五)の(五)字(五)妙(五)法(五)の(五)字(五)



び外宿方の山とふ火とととにけり。中々もま
 嶽の火文字と最上とに火の一字横の二壺の長
 こ四十名た遊あそべ一壺いっくわんちと午うるた遊あそべの
 一壺いっくわん、ちとちと一壺いっくわんとあり ②あまはゆり
 ③曹洞宗を門寺とまよふまに ④増まる山門やまかど用く
 ち飲のみふ三縁さんえん山と号なひ。後小松溪の池いけう西にし登のぼり
 上人おんじん圓基えんき園いん東十八ヶ寺。後林ごりんの蕪うなちあり
 ○江の大津おほつかたれ川がわかこり。法はふ家け永えい生せいといふを
 ありあり。さぬくのたりの通事つうじととるく

廿六〇 江戸秩地例も穡也（うらやま）穡也（うらやま）穡也（うらやま）穡也（うらやま）穡也（うらやま）

廿七 東 坂筋の神まつり 東洞院通六角土町

廿八 東 連立師家祇忌

廿九 東 牛麩の岡山忌 并 忠をうひよる妻又大文致

卅の忌子 岡基日志上人也

三十 東 神泉苑まつり

八月

上丁日 秋の二月と一年ふあなわりの文孝持

士大孝子寮ありて孔子教回ホとまつり。孝經

かろびよみ経おと講讀と。文武天白と大宮元
年二月又日にならぬてあつるななり

上戌日 痛後 秋の翌日なり。孝謙天皇

の時よりとらぬる。東より執りあり

時正 東山 灵山正法寺あり念仏。二月と同日

東 東也堂あり念仏。二月と同日

朔日 禁裏御る敷覧 御軍部よりを教へ

使も。二条中敷乃庭これと法より山松尾の神

事とすまふ。八朔日 法大名白根也。月○誓

本多村系分ぬあ日なり

△三日 夜 天神まつり

△四日 山 初渡ちま社の神の法華八講

△六日 ○ 江刺 白磐大明神開帳山門より下中て園

△七日 宗 乃祖神まつり 此の神といふ

△十日 宗 天儀天神まつり

△十八日 山 八幡教生と云 實のくじり 此の神を己年夷城お

こひて日なとせじ。ゆつて大隅日向。礼送よあよ
ぶ。公家よりハ宇依のまより結あり。その神

臣奉徳勝波臣米といふりの。神軍とそ

し。彼とせあまこく。その敵と討。八幡大社徳

しとのあり。合戦のりれたりの殺せとせり。

亡滅れあふ教生と云と勝とべし。され毎年

八月朔日より十八日中まで。徳西の魚と雲あつ

ぬ。十八日小山たふりとの。小川よとあつかり。放生

川これあり。その徳とあつ。富たくは神樂

山下にありとせあ。洞官 洞官 洞官 洞官

わひ。此人系と奏し徳をひ。法をまつて



村八まん海つり ○ 江列志賀山と宇佐八幡系
 ○ 長門を浦まへり ○ 執事新橋系(一)老あ
 宇佐系(一)月見系(一)伏見慶沢、大坂の江に
 て花火あり江戸の三波へ船出て出た花火あり
 (四)若月月見の四統合づつけあてあり
 △ 十六原本山の伏見系(一)京菅大坂まへり 松光系
 也新町の西あり ○ 花火大坂川に江戸
 △ 十七 ○ 修夏二橋の社
 △ 十八 京上下御具社社と上河具の社興二社下



此吳ハ祇園一社。狭小興一社なり。山ノ上桂の里
 此吳中より。菴西大寺光のまき今日より。世に日々
 で八幡をうゑ家忌なり。とてなり。菴子守之の
 まりり。〇伴務素名まりり

二十〇 此菴のま小社のゆるに十之二れといひ、

廿一 菴漢まままりり

廿二 山ノ形と徳を子信。を秦唐陸ちあてこれと

此と天坂安井天祚芝原まりり。菴紀寺天王祭

廿三 〇信列の月の約二十之。菴あち宰府乃

天神まつり今日よりたぬ日す

⑤⑥ 山 吉田本丸大町新祭

⑦⑧ 山 中村まつり ⑨ 山 多神まつり

⑩⑪ 山 親務寺宗徳院の山忌 ⑫⑬ 山 新藤まつり

⑭⑮ 山 梨乃村十六村まつり

⑯⑰ 山 山神の駒まつり

⑱⑲ 山 山の内まつり

九月

尚月中 安藝の玉文徳まつり

甲己午の日 周防北山まつり、祭神牛

以天白、洛陽紙をふち切、山口の紙をとり

号にじり、永正年中、小疫病あり、玉氏

死より事す、救ふあり、いづつて大町本丸大

丈長、これと物徳せり、ト新葉志、これと物

徳と

⑳㉑ 山 御音代文の山出、山城本紀傳、二あり、依

んの里よりせぬ、社伝三百、社に八幡大が

さけ、山母、神功皇太后とあり、めまけり、徳と

ち岡多あり。依見よ。此處と流るせあり。ひくさき
神離と東の畠より。あつり。凡此神乃
此處より。かいらし。あやめり。らん。おんく。此
つとあり。くく。ち岡ち。ろろ。せあり。ひ。神殿と。あ
れ。又。旧地より。くく。あふ。今の。え。居。ま
ま。ん。西。これ。あり。おん。と。志。を。く。う。つ。く。なり
く。お。今。世。俗。よ。右。河。香。の。え。と。く。く。なり
龜。氷。室。の。え。れ。ま。つ。り。此。人。の。舞。あり。⑤天
王。寺。金。堂。金。利。権。年。れ。く。き。系。あり

③日 ④大通寺 六孫王 此處。八系 立生 此あり
遍照 心流 と号 此寺 於二百八十 此寺 後金
の 將軍 源 實 納 公 の 山 基 西 八系 の 孫 尼 也
く。めて。建。ち。く。あ。お。俗。よ。危。ち。と。く。り。け。而。よ
六。孫。王。の。山。墓。あり。又。門。内。く。延。生。あ。と。て。あ
く。あり。元。禄。十。四。年。小。宮。東。く。り。本。興。あり
く。めて。六。孫。王。れ。や。ろ。ち。室。永。四。年。く。り。く
く。めて。あ。れ。む。か。つ。く。あり。⑤高。村。親。を。堂。村
水。村。ま。つ。り。⑥寺。向。ま。つ。り。⑦新。東。大。寺。依。八。幡

まろり 舞系河り ① 遠の津まろり

④ 京 小龍教まろり

⑤ 山 龍彌まろり ⑥ 山 日出まろり ⑦ 山 本懐なふ

⑧ 萱毛の津系 ⑨ 山 長池まろり ⑩ 山 龍舟まろり

⑪ 京 東山寺まろり ⑫ 京 大寺 ⑬ 山 懺法あり

⑭ 山 久世まろり

⑮ 京 泉涌寺 ⑯ 山 金剛寺 ⑰ 山 日持寺 ⑱ 山 系人ホ

まろり ⑲ 山 龍舟まろり ⑳ 山 龍舟の底まろり ㉑ 山 玉

まろり ㉒ 山 龍舟まろり ㉓ 京 文徳三教あり ㉔ 山 玉

造猫あまろり。按列を造乃思よませぬ

山とまろり。びふと名林の思とふ人わり。此な

り名林の思に位者小まろりとみろり

① 山 龍舟の意 ② 山 龍舟の意 ③ 山 龍舟の意

九月月と日と色小陽教あり。月は九月日と

人皇二十代。元恭天皇皇代。此の意は

は日龍はよ着の海とろふ。又月龍を此の意

よあや ④ 山 藤ヶ谷天皇まろり ⑤ 京 上京 ⑥ 山 上京 ⑦ 山 上京

小雲まろり。人皇百六代。此の意は

系中小咳くは疫えきを布り。小児こゝろの死しとる事。を救
わすことおそお老おやこれととトトして。をを弘大こうだいの神かみの
たつりたつりととり。二通にとふふりて。弘治二年九月
九日くわじつををドドめて洛水らくすいのの日ひととんんべべ狭小せうせう雲うんととままり
①ちゅうごうののままちちはは日ひををああ徳とく堂だうおおとと②せきせきままり
徳とく七しち妻さいありり③いん依い尼に御ご者しやののままままりり④ち六ろく地
蔵じざう系けい⑤じゅう山さん科か十八じゅうはちままりり。徳とく羽う大だいのの神かみなり
山科さんか十八じゅうはちのの月つきよよ二に三さんののままわり。通と社しゃのの中ちゆうにに乃
ままゆゆりりよよににれれままとと孫まごとと系けい神かみ二に死し天あま児こをを根

命いのち。天あまをを玉たま命いのちはは二に神かみ八はち天あま孫まご獲と々々神かみ号ごう洛らく水すい
のの附つたた太たい羽う翼よくのの長ながりり。びびゆゆへへ二に徳とく羽う大だいのの神かみ
とと号ごう次じ⑥しゅう山さん小せう岩いわ会かい庵あんたたくくとと系けい⑦にち日にち壯さう長ちやう尾び
天あま神かみままりり⑧しやう山さん田でん中ちゆうままりり⑨しやう山さん鞠きくるるままりり⑩しやう山さん西せい院いん
ままりりり筑ちくああのの八はち月つき廿にじゅう九く日にちののうう⑪しやう山さん櫻おう系けい系けい⑫しやう山さん三さん投とう系けい
⑬しやう山さん一いつははままりり⑭しやう山さん岩いわ田でんままりり⑮しやう山さん北きた尾び系けい⑯しやう山さん东とう尾び系けい
ままりりりののりりののりり⑰しやう山さん在ざい若じやくのの内ない中ちゆう村むらままりり。秋あきよ
りり倍ばい二に澄じやう人にんままりりりととりりととりり⑱しやう山さん生せい玉ぎよくままりり⑲しやう山さん

天正十一年社神。舞系あり。午はく。④天王
寺。子雲法事。午はく。善系あり。④大津
社。車海くるまうみの南みなみ小社の系。④大津。遊あそび分わけ小
社。まづり。〇但る出でまづり。〇純じゆん故こ高たか良ら大おほの社
まづり。三升さんじやう穀こくよ。てせあり。社やしろ系けい子こふ。系けい社やしろ一いつ升しやう
氏うぢ内うち宿しゆく祿ろく人ひと會あひ曰いは十じゆ代だい。天あま武ぶ天あま會あひ北きた西せい字じ。白
鳳ほう二年二月八日。神かみ池いけしての路みちり。應おつ社やしろ
天あま會あひの西せい字じ。小こ道みち。武ぶ累るいとあり。ひ。健けんおと
よ。道みち。あり。未み世よよ。今いま古こ敵たかひ新あらた神かみの。こと。こと

ひれありん。と。の。新あらた勝かちの。松まつ原はらよ。あ。う。こ。ふ。ま
と。う。て。新あらた神かみ降くだり依よの。字じ。と。う。て。我われ原はらの。下
小こと。け。刻きり自みづか然ら又また降くだり伏ふせんと。あり。み。新あらた宮みや
ひ。延のび長なが年とし中なか。建たて漸ゆるり。り。じ。かり。〇肥ひあ。長なが勝かち。細こ
紡紡大おほの。社やしろ。ま。づ。り。

④東あづま系けい天あま社やしろ系けい。洛陽らくやう松まつ原はら西せい河か渡わた西せい南なん
の。角かく。南みなみ社やしろの。天あま上かみの。社やしろ。系けい自みづか身み産う産う之の鬼おに之のの
出で子こ。か。表あらわ名な命いのち。大おほ己おの命いのちと。出でん。と。合あせ。天あま
下したと。經つと營えい。ま。づ。り。事ことと。う。て。め。社やしろ代しろり

おのそ徳業とやめ。民の病苦ととらひあふ
ころふよめて天子の御代は社小今を御
とつけさるあふぞ。これ一切の病苦とゆり
あふゆへその法少く。毎年五分の奉社家
餅白本とらりなり。④西条田は天子まらりゆ出
④下条御横方海まらり。④河津若の文社と社
④飯の畠村まらり。④河内大津口の文まらり
○河内高の山もあふあふ。○あふ授のあふ下大の
社まらり。を安敷くよまらせあふ。社銀三十石

系社二社。上の社に表火と出り。下の社に
を玉姫なり。人皇代十又代元正天皇。天武
元年九月十日。苗玉を氏社西の心内。表
河内源白名のよふ。とて表社とあふ。表
社に表火と出り。の后なり。別社殿有けり
南社二月堂へりなり。今日社を社とゆふ。こ
④十一 傳勢例幣中。を社まへ自あふ。河内中と
まらせ給ゆ。例幣とらり。朔日より今日迄
で僧尼を社とらり。の人事也。社は河内社と

初使と云らるる(京)尾志古孫王権現まつり。ど
め千日かり(京)尾志古山正法寺玉河上人三教護の
苑と信(山)がう堂村まつり

(十一) (山) 志摩摩多神社祭 東西の下こく紀奈

ととつ(山) 伏見三例奈の山出(山) 山本村 越津村

奈(山) 聖(山) 天王村奈るものり(山) 聖あり(山) 奈る津

まつり。栲列西成初生(山) の小ふたせあり奈る社

仁徳天皇あり。奈社(山) 境内(山) 六所(山) 四方(山)

て仁徳天皇(山) 皇居(山) のわとかりとつり(山) 〇徳倉(山)

はち(山) 親海(山) 國(山) 際(山) あり(山) 徳人(山) 雜集(山) と(山) 日(山) 蓮(山)
上人(山) 雜(山) あり(山) ひ(山) ひ(山) あり(山) あり(山) 又(山) 日(山) 嗣(山) 上人(山) の(山) 去(山)
の(山) 勢(山) 今(山) あり(山)

(十二) (京) 勅(山) 玉(山) 津(山) 橋(山) 中(山) 所(山) あり(山) 洛陽(山) 松(山) 原(山) 延(山) 鶴(山) 丸(山) 西(山) 入(山)

蜀(山) 例(山) の(山) 角(山) 又(山) 奈(山) 三(山) 徳(山) 後(山) 如(山) 紀(山) 列(山) 和(山) 方(山) の(山) 浦(山) 上(山)

つ(山) び(山) 西(山) 又(山) 勅(山) 徳(山) あり(山) 奈(山) 家(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山)

一(山) 名(山) の(山) 地(山) あり(山) (山) 白(山) 川(山) あり(山) あり(山) (山) 吉(山) 祥(山) 院(山) あり(山) あり(山)

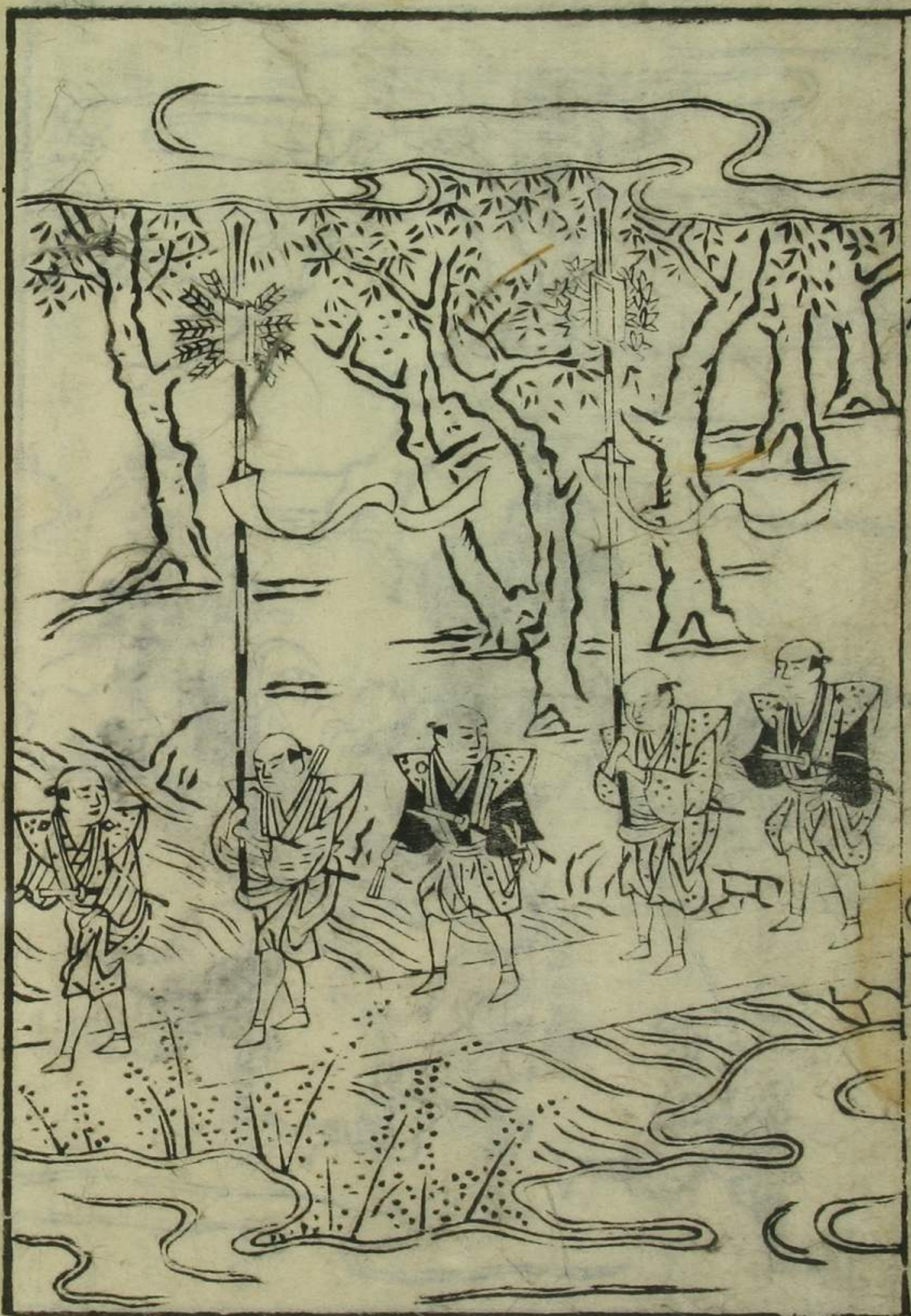
(山) 海(山) 去(山) ち(山) 村(山) あり(山) あり(山) (山) 徳(山) 徳(山) 徳(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山)

(山) 涼(山) 川(山) 神(山) 船(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山) あり(山)

色と煙いかり一いかり廿九日二十九日に月見世徒つきみよせだて江戸中月
 見のみおもひおもひ私出わたくしだるる新あたらしし良よききまますすりり

十五十五東東京京高高麗麗嶺嶺山山西西栗栗田田口口天天主主まますすりり山山小小倉倉
 すすりり山山小小北北すすりり山山細細古古奈奈山山中中古古奈奈山山北北
 坂坂すすりり天天主主まますすりり六六時時會會合合仏仏舎舎雨雨ののううくく葉葉系系
 わわりり森森茂茂佐佐長長すすりり九九条条橋橋又又河河りり南南社社をを
 寛寛永永元元年年香香西西哲哲雲雲とといいふふ人人佐佐長長大大助助新新
 とと物物徒徒せせりりはは社社ののううくくすすりり小小茂茂佐佐長長くくをを
 一一山山茂茂佐佐長長とといいふふととりり毛毛おおわわららすすりり





免系^{くわんけい}免^{めん}を^を進^{しん}む。免系^{くわんけい}免^{めん}と号^{ごう}せり。り^り回^{かい}
 田^{でん}の^の免^{めん}を^を進^{しん}む。三年^{さんねん}に^に一^{いち}夜^や。子^こ刀^{とう}辰^{ちん}午^ご申^{しん}戌^{しゅ}の
 年^{ねん}か^かり。社^{しゃ}領^{りやう}三^{さん}十^{じゅう}石^{しやく}。平^{へい}の^の将^{しょう}門^{もん}の^の灵^{りやう}と^とあ^ある^る
 社^{しゃ}か^かり。○河^か内^{ない}一^{いち}ま^ます^すり。○を^をあ^あか^か念^{ねん}祭^{さい}○
 安^{あん}養^{やう}の^の敷^{しき}地^ちま^まり^りる^るあり。○此^{こゝ}別^{べつ}の^の法^{ぽう}を^を
 ま^まり

△十^{じゅう}六^{ろく}系^{けい}古^こ町^{ちやう}三^{さん}橋^{はし}の^の社^{しゃ}ま^まり^り。○山^{さん}永^{えい}観^{くわん}堂^{だう}大^{だい}観^{くわん}若^{じゃく}
 經^{きやう}持^ぢ綾^{りやう}系^{けい}智^ち惠^ゑ古^こ百^{ひやく}万^{まん}石^{しやく}の^の舍^{しゃ}珠^{しゆ}の^のつ^つる。○山^{さん}長^{ちやう}法^{ぽう}
 東^{とう}大^{だい}王^{わう}ま^まり^り。○山^{さん}本^{ほん}过^か天^{てん}王^{わう}ふ^ふか^から^らる。○山^{さん}伏^{ふく}見^{けん}三^{さん}所^{しよ}

まろり天武天皇自まろりまろり部之(四)七祀中
ろまろり(四)池上池下八儀榜中まろり(五)難波
天皇中ろり(六)難波物町部之(七)湯(八)天(九)土(十)人(十一)能
若御持續午のころ(十二)奈陽の天(十三)勢部之(十四)系
祭部(十五)中(十六)天(十七)照(十八)天(十九)部(二十)之(二十一)系
日(二十二)大(二十三)的(二十四)部(二十五)之(二十六)次(二十七)ハ(二十八)倭(二十九)勢(三十)内(三十一)亦(三十二)更(三十三)ニ(三十四)西(三十五)又(三十六)東(三十七)云
一(三十八)まろり(三十九)毎年(四十)九月(四十一)十一(四十二)月(四十三)各(四十四)十六(四十五)日(四十六)小(四十七)系(四十八)礼(四十九)とつ
と(五十)じ(五十一)難(五十二)ろ(五十三)小(五十四)六(五十五)月(五十六)の(五十七)比(五十八)後(五十九)又(六十)位(六十一)者(六十二)の(六十三)比(六十四)喪(六十五)場(六十六)浦(六十七)部(六十八)
幸(六十九)ま(七十)ろ(七十一)比(七十二)府(七十三)計(七十四)社(七十五)の(七十六)を(七十七)迎(七十八)門(七十九)戸(八十)と(八十一)う(八十二)と(八十三)を(八十四)信(八十五)

部(八十六)と(八十七)入(八十八)り(八十九)ぬ(九十)れ(九十一)部(九十二)喪(九十三)ハ(九十四)部(九十五)的(九十六)と(九十七)お(九十八)も(九十九)ま(一百)を(一百一)ま(一百二)を(一百三)あ(一百四)て(一百五)を
ゆ(一百六)ふ(一百七)ぬ(一百八)と(一百九)濁(二百)て(二百一)信(二百二)を(二百三)し(二百四)り(二百五)か(二百六)り(二百七)世(二百八)俗(二百九)け(三百)社(三百一)と(三百二)作
右(三百三)の(三百四)后(三百五)也(三百六)比(三百七)後(三百八)の(三百九)部(四百)喪(四百一)と(四百二)と(四百三)と(四百四)ぎ(四百五)け(四百六)あ(四百七)り(四百八)ぬ(四百九)六
あ(五百)や(五百一)中(五百二)ろ(五百三)り(五百四)か(五百五)り(五百六)部(五百七)之(五百八)比(五百九)芝(六百)の(六百一)比(六百二)部(六百三)ま(六百四)ろ(六百五)り(六百六)部(六百七)之(六百八)倭(六百九)勢(七百)亦
之(七百一)新(七百二)嘗(七百三)命(七百四)を(七百五)こ(七百六)れ(七百七)ハ(七百八)新(七百九)来(八百)と(八百一)信(八百二)と(八百三)世(八百四)よ(八百五)り(八百六)と(八百七)部(八百八)之(八百九)比(九百)糸(九百一)と(九百二)り(九百三)り(九百四)り(九百五)り(九百六)り(九百七)り(九百八)り(九百九)り(一千)
痛(一千一)る(一千二)あ(一千三)り(一千四)

十七(一)系(二)本(三)法(四)寺(五)目(六)親(七)法(八)会(九)後(十)天(十一)皇(十二)古(十三)金(十四)堂(十五)中(十六)有(十七)此(十八)秘
法(十九)年(二十)此(二十一)く(二十二)後(二十三)本(二十四)法(二十五)ま(二十六)ろ(二十七)り(二十八)り(二十九)り(三十)り(三十一)り(三十二)り(三十三)り(三十四)り(三十五)り(三十六)り(三十七)り(三十八)り(三十九)り(四十)り(四十一)り(四十二)り(四十三)り(四十四)り(四十五)り(四十六)り(四十七)り(四十八)り(四十九)り(五十)り(五十一)り(五十二)り(五十三)り(五十四)り(五十五)り(五十六)り(五十七)り(五十八)り(五十九)り(六十)り(六十一)り(六十二)り(六十三)り(六十四)り(六十五)り(六十六)り(六十七)り(六十八)り(六十九)り(七十)り(七十一)り(七十二)り(七十三)り(七十四)り(七十五)り(七十六)り(七十七)り(七十八)り(七十九)り(八十)り(八十一)り(八十二)り(八十三)り(八十四)り(八十五)り(八十六)り(八十七)り(八十八)り(八十九)り(九十)り(九十一)り(九十二)り(九十三)り(九十四)り(九十五)り(九十六)り(九十七)り(九十八)り(九十九)り(一百)

引池田よりわたり 倭勢内外新掌云

十八 委天寺今更の社也 年たぐ華系あり

○吳服の社まつり 掛引池田よりわたり 社田

の社の社係生ちまこれとつとむ徳人類集と

系西支の社系は湯上る

十九 東 菴 祥寺 龜山院の社長 東 妙傳寺七面六の

社まつり 関社 山 常 常 常 七面六の社係

委わり 社 新 七面まつり

二十 東 繁昌のまつり。 ち辻家町のありあり

は社あり。 針才女とまつりあり。 亥ハ弁才天世を

つ。 針才女と繁昌と和綴らることせし。 徳人

あやまりとまつりあり。 右園秀香との社対は社と

東山佐女牛。 八儀の社のことくくうつとせあひ

うととたりとあひふりて。 又りとの比よりうと

ゆと。 東 建仁寺のあまひとまつり 俗よとひ

煮は頂とつり 山 中 鴻まつり 山 龜 社まつり 山

地 社まつり 社は名社院とわがあまかり

は西宇安のあまわつり 地 社まつり云かり

考羽虎の虎中てましく多る村よ。おりく渡津
河りしまがり地蔵の誰まといひく山竹田系
山と考羽まがり山笠取まがり山八幡元乃元
作り免わり後天王寺徳縁薩頂

①系天乃のまがり又桑河門のまにあり山
物渡ちまがり山小幡茨礮まがり山大和因お
山久世灰方まがり山葛持院門お天王系後橋
病まがり山山神と権祝系子眞夜午申戌己午を

②山終安も門お六甲のまがり後神鹿大船作

お系④大津大若まがり山本津まがり左方と重
⑤山岩をまがり山ち秦まがり山澄まがり⑥近
大津国も逆繁系延在帝れ自と女さうみのみえと
わがわー一のし

⑦山麻若まがり山本幡まがり山海老村系
山列岡の清あゆ神系

⑧山本野まがり山大おまがり山宇治田系
⑨天邊を流流るあり

⑩山清めの社まがり清陽蔭を町を推をの所

西ぐふ小河り安倍の清の宅地の伝わり
天祿社社事相殿して三教更わり

正七〇大坂津村の山奥より

天〇後山の大原の社まつり
〇醒井乃長社祭

〇東山大谷親家と人の社まつり
〇七日より今日まで

〇山内室より
〇鳴所後王子海つり
〇泉谷祭

〇依ん令札のま祭
〇伊香美の城田より
〇天祿社

命より
〇天王寺令堂全社
〇丹波大原より
〇新野

〇新野の社まつり
〇丹波大原より

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

〇丹波大原の社まつり
〇天王寺の社まつり
〇天王寺の社まつり

律なり。寺号へ律通すと号は。今日も此乃
法。法事とつと心

諸國年中行事卷之第三終

諸國年中行事卷之第四

十月

△初子夜 恒香の律法 二月小正月

△上申 ○河内九國平畷のまつり

△亥日 ○播磨八木の亥子の餅 八木村へ天満より七
里水あり。南村小門を交ると。教代居恒此の
あり。毎年亥の餅と恒例として此餅は
中川郡同。ふ素とよこよめあ火とあて餅本と
たご小豆とよせ。餅よ入て餅とあは。その色

八甲亥○出雲大社の社より。社に又子不杵鏡大社
 又と号し。素蓋鳥子の舎にあり。じりーを
 室殿のより三十二丈。今減じて八丈あり。し
 日の内。勝れ社。佐陀の社。凡三社を合て大社。之
 朔月○掃部寮。友の内。鍾をわく。あ。そ。れ。社。を
 佐と。系。智。徳。院。湯。美。今日より十二日。まで。○天
 王。の。令。嘗。金。利。海。年。れ。ら。る。者。系。あり。○夜。同。棚
 所。本。比。佐。七。ケ。日

三日○山比敷山元三丈師の内。新園。年中二月の飯

室よ。内。所。わ。る。なり。十ヶ月。横川。あり。又。所。よ
 安。並。は。る。所。の。月。今日。園。と。と。る。なり

宵○東。禪。宗。徳。又。山。よ。て。蓮。慶。会。系。海。去。宗。十。月。十
 取。の。注。り。今日。より。十。又。日。まで。大。坂。江。戸。同。の。し

系。元。也。嘗。踊。躍。念。仏。今。取。る。の。こ。と。より。十日。日
 乃。表。ま。す

六日○山。主。如。堂。十。取。念。仏。院。野。山。極。系。ち。三。如。堂
 と。号。し。東。山。う。ら。う。あり。ち。如。一。日。又。不。清。和
 天。皇。の。内。宮。慈。覺。大。師。の。園。基。山。門。比。敷。山

の末寺なり。中奥の岡山の戒筭上人がまゝの河
孫隨ハ。慈覺大師乃化して。不乃念仏の道
場なり。今教座のこく。より。十六日の夜まで
齋法死会 奥福寺少て終る

七日 京大徳寺方丈虚堂忌

八日 京彰徳寺中より 齋天まじり塔院十條忌
乃剃髪茶あり

十日 山叡山法苑八條の式。山院下山。内手洗。
井ありとて。芭山と。齋奥福寺維戸会。今日より

十六日 中そく大職冠の忌あり

十一 山松の尾神お八條 今日より十八日まで三井
ちよりこれを終。つとむ。○渡波の玉念思終

権現あり

十二 山 柵の尾虫伝書 今明日あり

十三 京日蓮上人の親傳法玉同よりあり 山お山お
光寺の開山法苑三鳴漸村よりあり

十八 山 藤嶽藤王院舍利会。あのおなるびより
典司等二十八祖の像よりあり 山松尾の舍利開

懐^①天王寺に在り

△十六 京東福も開山忌 一宮一寺師葬送の式あり

① 齋場徳の尾ち弘名經云。今日より十八日まではあ
びよ法苑と修す。欽^②天智の御宇に乃^③法上
人^④象創かり。世親を^⑤の^⑥化^⑦ゆへは^⑧後^⑨池^⑩
ゆへ^⑪梵^⑫宇^⑬と^⑭て^⑮丈^⑯六^⑰乃^⑱孫^⑲勅^⑳の^㉑像^㉒と^㉓よ^㉔び
文^㉕珠^㉖曰^㉗天^㉘王^㉙の^㉚像^㉛と^㉜安^㉝置^㉞す。世^㉟親^㊱の^㊲廟^㊳と
り^㊴入^㊵け。護^㊶伽^㊷藍^㊸社^㊹と^㊺せ^㊻り。その^㊼ち^㊽乃^㊾基^㊿の[㋀]
新[㋁]米[㋂]。法[㋃]海[㋄]上人[㋅]い[㋆]ち[㋇]よ[㋈]俵[㋉]せ[㋊]られ[㋋]時[㋌]づ[㋍]く





ともあへ。一人の家傍にありよふおひく
 夏のる香多とそり。九旬とすしてかたは
 時時その後とひりーかましよ人かま
 らしりしうばやうてうりぬよ人かま
 鳴くされーかましよ年かまかまかま
 こそ海河おひりかまのよおならして
 ちや我いれかましよかまかまかま
 まら子か親もとわらしよとびりかま
 人感涙よじせびらふりかまの像とつり

宝殿とて安んじられり。毛よりして
そ其験たらふらうとて一きぞ

十七 四月付西の山祓系 ○奥列仙臺 東照宮の
大系二年ふ一後なり

十八 ○夏比須禱 系大坂に在る外禱必同と
然然枚多びとまりり 官志殿中より。四系寺町

祓室の西後よりあり。その由の祓とて知りて。俗
より誓文の祓なりとて。今日法人祓集と。古

作坊昌後美經とわらむと。村手の使わらむと

誓言し。さらし祓り祓とてうけて殊せらる。そ
其仍誓の祓とてくりんとて。わらむる社といふ

実とてらむに 系 誓言の因心志 如法念仏わり 山天祓
ち弘玉國所忌 其龜山天祓賢聖祓と号に

十九 山 競るまけがく 獻物大秋所とらめ

二十 天 天とちる子堂二十禱とてこのく言ふと
二十一 系 法務寺大系とて今日より又日たり

二十二 系 東南祓と一山忌。揚新山天平具古自祓々寺
と号に

正六山延暦寺 香澄忌 今日日雲門庵中これと修と

正六夜中夜中夜中の山堂中親雲上社忠遠園二并

寺海峯 智院大師堂中一山の大家海峯と

正九四二并寺智燈大師忌

晦日夜天王寺太子堂三十條云 中日 己のこく舞承あり

◎夜夜社じく

十一月

子より ○并徳玉社社の四火焼

甲子山大原社のまつり 二月の上の卯あり。五條より

未申の方へ三里あり。山嶽の玉し刑部よろせあり

社殿十二本 桓武帝もこと長長よろし。内

裏とけくらせあり。時三笠山も准へ。春日大

社と勧修し。徳守の社とあり。そほは系

へうのされより。又大原社も准へ。若田山と

そよ。春日大社とわがや。寺護社とあり。さ

のり

中邑 東園韓社まつり

中宣 東園韓社のまつり。びまつり。人の絶絶の社と

此と申す縁あり。おれ申すよまのじりあ。功徳あり

初卯山 八幡河津神樂 ○大和南宗まつり ○宗像

まつり ○中山まつり

上酉山 梅の交糸山 松の尾まつり ○大和率川糸

中酉 ○伴豆の玉三鶴酉の市

上辛 糸 祇園をけ火焼

甲卯 内 新嘗まこれいさけ初穂と神よまを

中辰 内 冬の時乃をま

上巳 山 山科まつり

上申 山 社中まつり 山 草社まつり 糸 大文控現まつり

大和ま日大の社まつり 南勢へ勅使と立させあり ○安

藝まい流くまの市

中申 糸 香田まつり 近 日者院時のまつり

申白 山 大和山縣の社まつり

下酉 山 賀茂院時の糸 宇多天皇自ままま王信

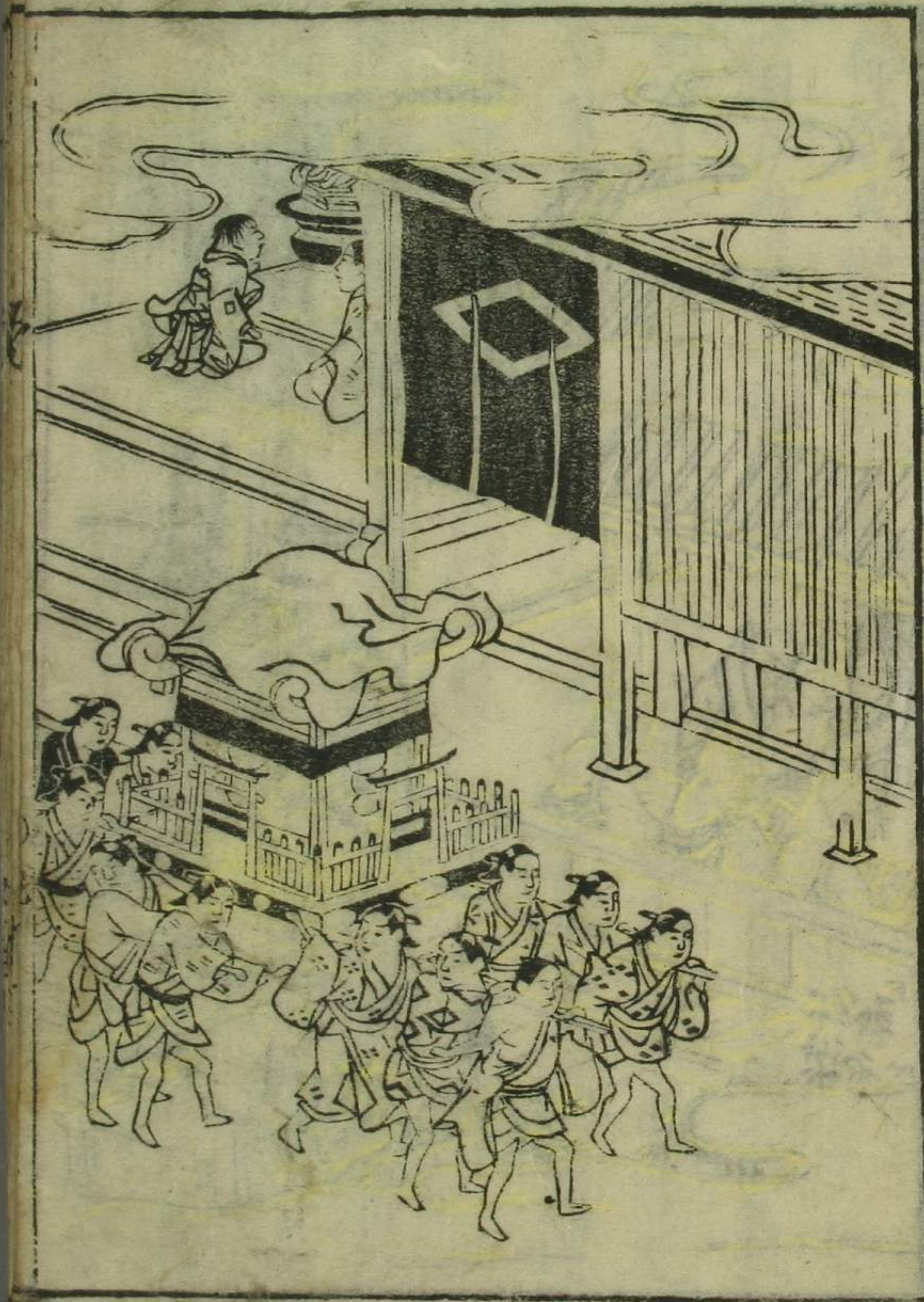
まなりいさしは格よ出河ありたる時 儀よまを

くまなりいさしは格よ出河ありたる時 儀よまを

れいこま賀茂の時社あり 南社よまをまつり

かうしてさびるれが志隆時（リョウトキ）のまうりやぶつとあ路
へよのあよまは坊安（ヤシ）ら。さうは事ハ我をうらひよ
らあひごて。みまご（奏安（ソウヤシ））をあへしれあふ
め神をう縁てゆありてうくハ中はあつこのあふ
よと。おがへてうせあひぬ。まほくがさうて
あふよりん。世父小松のみまごらるあつせあひ
まみあまごしゆ。まは申ふ。オオこのまは坊。オ
まようてせあひ。世ゆづりとうけをまうしけ
まべわうらぐわ神のまうと。あつごていへ言て。

寛平元年十一月をぐめて隆時（リョウトキ）のまうりとか
こがりせあふ。平院の左大臣（サダメノサマ）平公（ヒラノヒラ）いまごら申お
あて。祭使（サヒ）とつとああひいへかり
朔旦（セツタン）冬むは月朔旦冬むよあつと朔旦の冬む
といふ。二十年に一夜あつてハカをむ目出な祥瑞（ケイメイ）
さうふよひて。禁裏あてハ世を又笑と。さうりおとを
あつて冬む。あつ心の兼拂（イカンカキ）
朔日（セツジツ） ① 忌火（イミカ）の世飯（セイイ）と佐と。内膳（ウチゼン）今日忌火（イミカ）の世
飯（イ）と佐と。事六月の式法（シキホウ）も同（ドウ）。② 世曆（セリキ）奏申（ソウモン）



勢の省明年のことと申す。此の法方へは今日より
 曆よりいひにかり。④ 幸ふ船系。天まの金藤舎
 利後。年此く若系何り
 ② 系 系山 縁林。永銀長
 ① 系 福海大明神。火焼。吹草まつり。とて。振
 治弘く師。為道。そ外一切の金々。とて。此法
 民生。寿へ。い。と。よ。つ。民。は。此。神。と。修。作。の。事。也
 今日。と。と。と。い。は。まつ。り。縁。ふ。く。系。法。方。十。種。刺。女
 此。火。焼。日。蓮。宗。の。事。也。⑤ 幸ふ。時。まつ。り。⑥ 幸。玉。造。乃



稲荷火焼 ○江戸吹草系

十日山 稲荷を田の社なりり 上賀茂を社なりり
町東山 敷山法苑八幡今目山門の大成下山にて
下賀茂は手洗川のみとらてまのよの用と
とらなりり 稲荷火焼

十一山 稲荷系と伝と 丹列并河村より稲荷の
ろく 稲荷あらびよ稲荷ととふ二徳 他河野
へなる山 妙なるを稲荷の山と云ふなり官乃門
を練交は火焼は湯とよらる山 稲荷法塔今目

稲荷

十一

より十二百まで用ひ云

十三 夜生玉大納言火焼

十三 系 新玉海鳥のまくり 系 名也長今自より白七夜

徳玉の持てくさ 系 妙眼寺目像法云 系 天王

ち海堂仏名 今日より十二百まで名系あり

夜 難波の稻海火焼 夜 八夜三火焼

十五 系 今又大納言火焼 夜 天王今堂新尊云年

めくく 午の下ろくち子堂同の

十六 夜 舟摩の又火焼 夜 釣目の又納言火焼 夜 焼

獨町納言の火焼 夜 ち白らく町納言火焼 夜 天王

寺乃納言のまくり 一日天王村置の辻ぐり

まらんべとちあつまり 幸代納言まくり これ初代納

言あて 旗りのまくりひと 旗りうせぬ入納言さ

ばよふらて 姓承の人よ 旗とらひとらあえこれハ

子をこまとらひとゆかさひじうぐりまりのまて 旗

候さひらかり これとら納言まくりとらひはまを

ありくろ人へ 今日びへんまをまをまをまをまを

かりくろ若へあつまをまをまをまをまをまを

十八 東上下御所の火焼 西天祥の火焼

十九 東雲指の津薙忌

二十 東壬生寺の松名忌 今日より廿四日まで 東東池

本誓寺の松名親誓上人忌 今日より廿八日まで 以戸回幸分り

廿一 西山比叡山 三井寺 屯忌仍下天台の智志大

師遠 天鼓 天玉寺傍坊の天師遠

廿二 天和壬生寺の松名忌 今日より廿四日まで 東東池

廿三 天和壬生寺の松名忌 今日より廿四日まで 東東池

廿四 東清光寺の敷忌 西天玉寺の金堂舍利塔午
此く春系あり 天和壬生寺の日出まわり 辰日此法
晦日東宮祭中より

十二月

上卯 和列三條大内祓中より

下午 西御發上

大宮の日 東去年此童子の像どろろびり 聖を三條

又天下小疫病を有り 万民おろく死せしむる去年

とつりて 疫神とまのまり 大宮の日表す

陰陽師イナウお去年皇子のうららと傳り。門カドこよ
まらかり

刑日ケツジツ系を秦の仏名と云ケツ系天智天王の御名と云ケツ系天

王と合堂舍利海年のうらと書承わりの二日中て

六日ムロヒ系智徳院用山云ムロヒ系徳院といふ大仏の東南

ち筑五百石。ま言光徳流して新築のまの寮

かり。又去年申を岡ま書公由子無業志のま

たらあひいーまがまのくまらよ建まわり。妙ん

まの奇化キカわると用基と一ヒト祥雲院と号せ

らる。あうらよ振来ちみ徳とよい一申と。此
ふよとよませあひその妙僧の用。ま徳院て
する僧と。二人のまあひ。一人のま谷小池坊よ作
せしめ。一人の智徳院ま辰一ま。新築の法流
とてこ一あうら。祥雲院の妙んまうら一ま
あるとま智徳院とせらる

八日ヤツヒ系智徳院徳義トクギを後河宴わりの事と

一わに戸中舞と伝るかり

十一ユヅ系智徳院トクギ 南日法事所の妙んま



用山三山有保ち大内玉所云

十三 正月事たるめ(の)とくちうひちたされと納む

十四 京泉涌ち全利云 今日より十六日まで

十五 京最務寺の灌頂(の)八幡安房の改

十六 儀系親善の市 今日より十九日まで正月

のりとり乃具とるかり

十八 天玉ちち子堂修云云西のこく

十九 所仏名 今日より廿一日まで 禁裏少法

傍三世の徳仏の名号ととる云云振のつとを減と



けいのりかり 山 松の尾仏殿と云 今日より廿二日
 まて 齋 役者 祓文 古 仏 名 云

△廿日 山 後派の釈迦堂と云ふらひ 并 園持あり

△廿二 系 大徳寺 園心 云 方丈 三 板 一 封 あり

△廿三 系 柱のの一通上人云 時宗 持 ち ち ち ち ち ち

△廿五 〇 江戸 日本橋 口 日 ち ち ち ち ち ち ち ち ち

て 今日より 毎日 まで 正月のころ あり 乃 具 大 一 切 の
 ちの とうり あり

△廿六 〇 被 魔 弓 羽 子 板 の ち 今 日 一 日 毎 日 まで

中務尾張町一丁目十乃店、井内のお花町に
丁目、浅草なる所、あしあしあてうら。近町の中
あて小倉とくけ。遠者の旅とらかり

⑤八条 井内とら結

△大増④ 遊樂のあま。大今人寮鬼とつとめ。陸陽寮
祭文と、むしにめ下これと遊樂上の侍に、靴の
引ありの矢とつてわら。仙苑門より入て、東を
ととと、西口の千よ、はる。は月あり鬼籠のちりて
ととと、手ふ、そめ、こ、そ、ら。又依子とそ、緋の布

衣まゝなる者二十人との。に門とあらかり。
年仲の夜、氣とらかり。⑥ 祇屋の社けら
とくけ、祇屋、元朝賣のこ、かり。⑦ 芝井のま
に、西極とらかりとそ、に、弁天のま、り。○
併務、あまの、終る。○ 考、あ、の、早、友、の、ま、和、布
薊の、祇、り、較、れ、毛、の、割、祇、友、海、中、よ、入、て、和、布
とらかり

△⑧分④ 内、は、あ、ま、の、り、申、ろ、く、り、成、の、割、ま、て

⑨ 又、糸、の、天、祇、ま、り、白、木、と、ら、あ、ら、り、と

系書田まのり今日疫神命の祀いけり
徳永年中仍事卷之身四終

享保二丁酉年三月吉且

皇都書肆

長村半兵衛

行板

高頭行

越後三嶋郡

深澤高河平

